

福井県埋蔵文化財調査報告 第109集

# 福井城跡

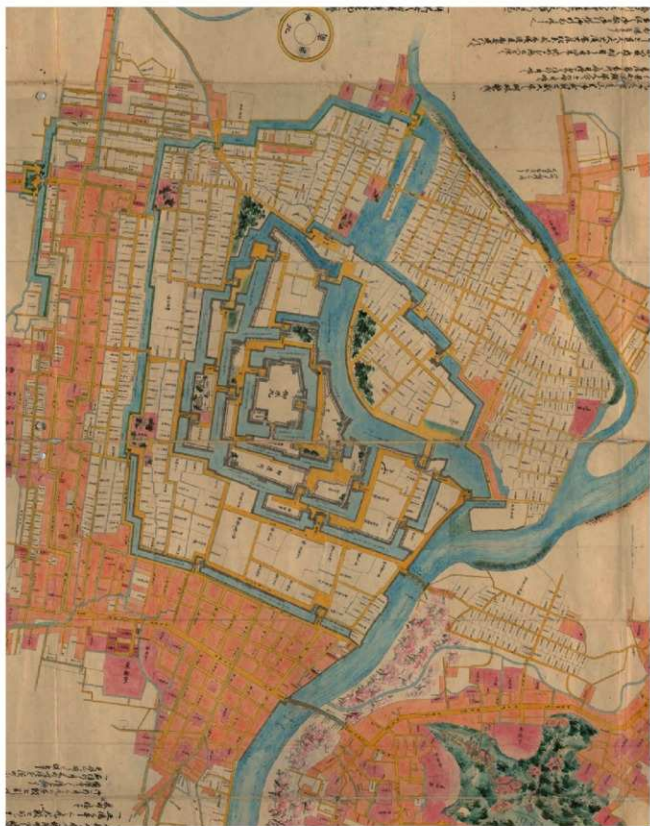
—北陸新幹線福井駅部建設事業に伴う発掘調査—

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



1309「北庄城郭図（北小家中園）」 慶長18年頃・文政4年模写 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）



1342 「御城下之図」 慶応年間・明治14年復元 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）

## 序 文

福井城は、本丸を中心とした輪郭式の平城であり、その城下町は現在の福井市中心部に展開していました。後世には市街地へと整備され、福井城の姿はほとんど失われてしまいました。しかし、近年の中心市街地再開発に対応した発掘調査の成果により、福井城の様相が徐々に明らかになりつつあります。また、これまで発掘調査の折に開催しました現地説明会には、毎回大勢の方々がお見えになり、福井城に対する関心の高さが窺えます。

このたび、全国新幹線鉄道整備法に基づく整備新幹線である北陸新幹線の福井駅部整備事業が認可されたのを受け、それに先立って発掘調査を行いました。その後の遺物整理事業も終了し、ここに成果を報告できる運びとなりました。

調査では、武家屋敷地とそれに関わるゴミ穴等の遺構群・百間堀にかかる三崎門へ続く土橋・外堀などを確認しました。また、多数の陶磁器、漆器碗や箸・下駄などの木製品、硯・砥石や笏谷石を加工した多種多様な石製品、煙管や簪・迷子札などの金属製品、輪羽口や鋳型等の鍛冶関連遺物など、当時の武士の生活を窺い得る遺物が出土しました。

今後、これらの資料が、福井城と市街地における埋蔵文化財に対する理解をより一層深める手がかりとなること、そして、本書が、学術研究・郷土史研究・学校教育など、各方面で広く活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査および整理事業の実施にあたり、多大なご協力とご配慮を頂きました地元関係各位・諸関係機関をはじめとする皆様に、深く感謝申し上げます。

2009年3月

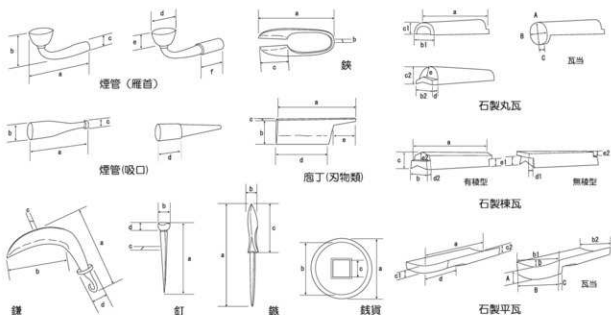
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター  
所 長 吉 岡 泰 英

## 例 言

- 1 本書は、北陸新幹線福井駅建設事業に伴い、平成17・18年度に発掘調査を実施した福井城跡の発掘調査報告書である。福井城跡は、福井県福井市の市街地中心部に展開する周知の遺跡である。
- 2 発掘調査は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが北陸新幹線整備機構・福井駅周辺整備事務所からの依頼を受けて、本多達哉（当センター主任）・畠中清隆（同）・河村健史（同）・御嶽貞義（主査）・野路昌嗣（同）・鮎本眞友美（同）・木下一誠（当時、嘱託職員）・岡田 幸（同）・川村亜悠美（同）・佐藤優子（同）・的場茂晃（同）・釘谷 紀（嘱託職員）・木村茉莉（同）を担当とし、平成17年8月22日～平成18年9月29日の期間に実施した。
- 3 発掘調査対象地は6つの調査区に分割し、各調査区に調査開始順に南側から調査区番号を付した。調査区番号は、FKJを福井城跡の略号とし、調査年次とその年の福井城関連調査順の番号からなる。なお、今回の調査区番号および各調査区の担当は、以下のとおりである。  
FKJ05-4・3 本多・的場・釘谷 FKJ06-1-1 畠中・本多・岡田・釘谷 FKJ06-1-2・3・4 鮎本  
FKJ06-2南側 野路・木村 FKJ06-2北側 的場 FKJ06-3 河村・木下・木村  
FKJ06-4 御嶽・佐藤・川村
- 4 現地作業員の派遣・管理は、株式会社イビソク・国際航業株式会社・アジア航測株式会社に委託した。
- 5 分層後の遺構断面図作成などを含む一切の測量業務を株式会社ソクタント・株式会社日本海コンサルタント・株式会社サンワコンに委託した。分層・校正は各調査区の担当者が行った。
- 6 整理作業および報告書作成作業は、平成19・20年度に福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 7 本書の執筆は、本多（主任）・河村（同）・青木隆佳（同）・御嶽（主査）・野路（同）・釘谷 紀（嘱託職員）が分担した。執筆分担は、以下のとおりである。  
本多 第1章、第3章第1・2節、第4章第2節 河村 第2章、第3章第5節、第4章第1節  
青木 第4章第4節 御嶽 第3章第3・4・6節、第4章第3・4節、第7章第1節  
野路 第3章第4節 釘谷 第5章、第7章第2節
- 8 本書の編集は、御嶽が担当し、各執筆者が補佐した。
- 9 出土遺物のうち、土器・陶磁器の製図、金属製品・石製品の図化・製図は、国際文化財株式会社（国際航業株式会社）に委託した。図化・製図の校正および実測図のレイアウトは、各執筆者が担当した。
- 10 出土遺物のうち文字資料の判読については、吉田 健氏（福井県文書館 嘱託古文書調査専門員）、印牧信明氏（福井市郷土歴史博物館 学芸員）のご教示を得た。
- 11 本書掲載の写真は、遺構については各調査区の担当者が撮影し、遺物については土器・陶磁器・金属製品・石製品を国際文化財株式会社（国際航業株式会社）が、木製品を本多が撮影した。
- 12 本書掲載の遺構測量図は、株式会社ソクタント・株式会社日本海コンサルタント・株式会社サンワコンに委託した成果を一部改変した。工事立会の部分は、ジビル調査設計株式会社に委託した成果を一部改変し使用した。
- 13 自然科学分析は、木製品の樹種同定と漆器の塗膜構造分析を、株式会社吉田生物研究所に委託した。獣骨・魚骨など動物遺体の分析は、丸山真史氏（京都大学大学院 人間・環境学研究科）の御好意による。ここに記して謝意を表す。これら各種分析の結果報告は、第6章として自然科学分析の章を設け掲載した。
- 14 本書掲載の福井城下の絵図は、いずれも松平文庫蔵（福井県立図書館保管）の資料である。巻頭図版は、提供された画像データをトリミングして使用した。挿図は、トリミングのうえ一部加工・加筆して使用した。
- 15 本書収録の遺物およびその他の資料は、すべて福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが管理・保管する。

## 凡 例

- 1 本遺跡は、近世の福井城跡を主要とするが、古代にまで遡る下層遺構の確認される複合遺跡である。先例に倣い、結城秀康の越前入国・北庄城の改築（いわゆる福井城の築城）すなわち17世紀をもって近世とする。今回の調査における中世の遺構は、部分的であり、近世の遺構との時間的連続性が強く、両者の判別が困難であることから、近世と章をあわせて扱うこととした。時期的・性格的に隔たる古代については、章を改めた。
- 2 遺構番号は、遺構種別に関わらず通し番号を付した。複数の調査区で通し番号を付けていたため、それぞれに調査区番号を冠するものとした。ただし、遺構図作成の都合により、平面図における遺構番号の表記に調査区番号の欠落するものがある。煩雑・混乱を避けるため、すべての遺構挿図名に調査区番号を付した。
- 3 本書で使用した座標は国土方眼座標系第Ⅵ系に基づくものであり、方位は座標北を基本とする。
- 4 挿図は、計測単位をメートル法で表し、遺構図などの標高は海拔高度で示した。
- 5 挿図の縮尺は、挿図ごとに記した。
- 6 遺構図における断面の位置や立面等の見通し位置は、その両端を「-」で図中に示した。
- 7 断面図の土色は、小山正忠・竹原秀雄編 新版「標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修に拠る。
- 8 遺物実測図の縮尺は、土器・陶磁器は1/4、木製品は1/3・1/4・1/6、石製品は1/3・1/4・1/6、金属製品は1/3・1/4をそれぞれ基本とした。しかし、種別や個体の大きさにより、適宜これら以外の縮尺も使用した。
- 9 遺物観察表の計測値については、土器・陶磁器等は口径・底径・器高、それ以外の遺物は高さ(縦)・幅(横)・厚さ(奥行)を基本とした。また、計測箇所を比較的把握しやすいものは表中にその箇所を項目に表記した。特殊な器形や計測箇所の煩雑なもの等についてのみ、以下に計測箇所を示した模式図を掲載する。



# 目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の契機	1
第2節 調査の経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 福井城下絵図にみる調査区とその周辺	3
第2節 福井城下・各調査区における基本層序	9
第3章 中・近世の遺構	14
第1節 FKJ05-3地区の調査	14
第2節 FKJ05-4地区の調査	37
第3節 FKJ06-1 (-1・2・3・4)地区の調査	47
第4節 FKJ06-2南側地区の調査	61
第5節 FKJ06-2北側・06-3地区の調査	79
第6節 FKJ06-4地区の調査	99
第4章 中・近世の遺物	131
第1節 陶磁器	131
第2節 木製品	181
第3節 金属製品	204
第4節 石製品	214
第5章 古代の遺構と遺物	225
第1節 FKJ06-2・3の様相	225
第2節 FKJ06-4の様相	234
第3節 FKJ06-2・3地点と4号線地点に展開する遺跡の性格	237
第6章 自然科学分析	241
第1節 福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査 株式会社 吉田生物研究所	242
第2節 福井城跡出土木製品の樹種調査結果 株式会社 吉田生物研究所	253
第3節 福井城跡 (FKJ05・06次調査) から出土した動物遺存体 丸山真史	265
第7章 総 括	281
第1節 調査の成果 一屋敷境の変遷について一	281
第2節 古代足羽郡の実相	287

## 写真図版目次

- 巻首図版 (1) 1309「北庄城郭図(北庄家中図)」慶長18年頃 松平文庫蔵(福井県立図書館保管)  
(2) 1342「御城下之図」慶応年間・明治14年復元 松平文庫蔵(福井県立図書館保管)
- 図版第1 遺構 FKJ05-3  
(1) FKJ05-3 調査区全景(南)  
(2) FKJ05-3 調査区全景(北)  
(3) FKJ05-3 廃棄土坑53032(東)  
(4) FKJ05-3 井戸53064(南西)
- 図版第2 遺構 FKJ05-4  
(1) FKJ05-4 調査区全景(南)  
(2) FKJ05-4 調査区全景(北)  
(3) FKJ05-4南側立会部分 石組溝(西)  
(4) FKJ05-4 区画溝54049・70(西)
- 図版第3 遺構 FKJ06-1  
(1) FKJ06-1-1 調査区全景(北)  
(2) FKJ06-1-1 石垣根固め状況(東)  
(3) FKJ06-1-2 調査区全景(南)  
(4) FKJ06-1-2 土橋南面石垣背後の石列(北)
- 図版第4 遺構 FKJ06-1  
(1) FKJ06-1-2 土橋上面(東)  
(2) FKJ06-1-2 土橋北面石垣(東)  
(3) FKJ06-1-3(南) 手前:06-6-2(福井市分)  
(4) FKJ06-1-4(南)
- 図版第5 遺構 FKJ06-2南側  
(1) FKJ06-2南 調査区全景(北)  
(2) FKJ06-2南 北人分門北面枳形石垣(西)  
(3) FKJ06-2南 北面石垣(東)  
(4) FKJ06-2南 北面石垣駒木組(東)
- 図版第6 遺構 FKJ06-2北側・06-3南側  
(1) FKJ06-2北 調査区全景(南)  
(2) FKJ06-2北 調査区全景(北)  
(3) FKJ06-3南 調査区全景(南)  
(4) FKJ06-3南(西)
- 図版第7 遺構 FKJ06-2北側  
(1) FKJ06-2北 池①(西)  
(2) FKJ06-2北 池②(西)  
(3) FKJ06-2北 池③(西)  
(4) FKJ06-2北 池④(西)
- 図版第8 遺構 FKJ06-3北側  
(1) FKJ06-3北 調査区全景(南)  
(2) FKJ06-3北 砂利敷道路(西)  
(3) FKJ06-3北 池①(西)  
(4) FKJ06-3北 池①(東)
- 図版第9 遺構 FKJ06-4  
(1) FKJ06-4 調査区南側(土居から南)  
(2) FKJ06-4 屋敷地③柱穴群(西)  
(3) FKJ06-4 外堀西岸・土居東斜面(北)  
(4) FKJ06-4 外堀東岸(西)
- 図版第10 古代の遺構  
(1) FKJ06-2 古代の遺構(北)  
(2) FKJ06-3 古代の遺構(南)  
(3) FKJ06-4 古代の遺構 溝64247・249(西)  
(4) FKJ06-4 古代の遺構 井戸64245(東)
- 図版第11 陶磁器 伊万里焼1
- 図版第12 陶磁器 伊万里焼2・貿易陶磁
- 図版第13 陶磁器 唐津焼1
- 図版第14 陶磁器 唐津焼2・瀬戸美濃焼1
- 図版第15 陶磁器  
瀬戸美濃焼2・信楽焼・その他窯産
- 図版第16 陶磁器 越前焼・備前焼
- 図版第17 陶磁器 軟質施軸陶器・土師質土器・瓦
- 図版第18 木製品 漆器椀1
- 図版第19 木製品 漆器椀2
- 図版第20 木製品
- 図版第21 木製品
- 図版第22 木製品 木簡・墨書・下駄
- 図版第23 金属製品 武器・武器・煙管・釘類
- 図版第24 金属製品 鍛冶関連遺物  
農具・日用品・その他
- 図版第25 石製品 石瓦・石臼
- 図版第26 石製品 バンドコ(行火)・容器類・紙石
- 図版第27 石製品 硯・石塔類・基石・その他
- 図版第28 須恵器・土師器



## 挿 図 目 次

第1図	調査区域図	2	第35図	FKJ05-4 遺構①-3	40
第2図	福井城における調査地の位置	4	第36図	FKJ05-4 遺構②	41
第3図	福井城本丸と調査地周辺① 「北之庄城郭図」1309	5	第37図	FKJ05-4 遺構③-1	42
第4図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺② 「御城下之図」1314	5	第38図	FKJ05-4 遺構③-2	43
第5図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺③ 「御城下絵図」1319	5	第39図	FKJ05-4 遺構③-3	44
第6図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺④ 「御城下絵図」1317	6	第40図	FKJ05-4 遺構④-1	45
第7図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺⑤ 「福居御城下絵図」1320	6	第41図	FKJ05-4 遺構④-2	46
第8図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺⑥ 「御城下之図」1325	7	第42図	FKJ06-1-1 遺構配置図	48
第9図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺⑦ 「福井分間之図」1340	7	第43図	FKJ06-1-1 百間堀南岸石垣	49
第10図	松平文庫蔵(福井県立図書館保管) 福井城本丸と調査地周辺⑧ 「御城下之図」1342	8	第44図	FKJ06-1-1 石垣裏込断面図	50
第11図	調査地土層模式柱状図①	12	第45図	FKJ06-1-1 堆積状況①	51
第12図	調査地土層模式柱状図②	13	第46図	FKJ06-1-1 堆積状況②	52
第13図	FKJ05-3 遺構平面図の区分	14	第47図	FKJ06-1-1 遺構	53
第14図	FKJ05-3 遺構配置図	15-16	第48図	FKJ06-1-2 東三ノ丸土橋	54
第15図	FKJ05-3 遺構①	18	第49図	FKJ06-1-2 東三ノ丸土橋横断面	55
第16図	FKJ05-3 遺構②	19	第50図	FKJ06-1-2 東三ノ丸土橋石垣	56
第17図	FKJ05-3 遺構③	20	第51図	FKJ06-1-2 東三ノ丸土橋両側堀内堆積状況	57
第18図	FKJ05-3 遺構④-1	21	第52図	FKJ06-1-3・4、6-2(福井市分) 遺構配置図	59
第19図	FKJ05-3 遺構④-2	22	第53図	FKJ06-1-3 遺構	60
第20図	FKJ05-3 遺構④-3	23	第54図	FKJ06-1-4 堆積状況	60
第21図	FKJ05-3 遺構④-4	24	第55図	FKJ06-2南側 近世1	62
第22図	FKJ05-3 遺構⑤	25	第56図	FKJ06-2南側 近世2・3	63
第23図	FKJ05-3 遺構⑥	26	第57図	FKJ06-2南側 中世1・2	64
第24図	FKJ05-3 遺構⑦-1	27	第58図	FKJ06-2南側 石垣・堀	65-66
第25図	FKJ05-3 遺構⑦-2	28	第59図	FKJ06-2南側 桁形石垣	67
第26図	FKJ05-3 遺構⑧-1	29	第60図	FKJ06-2南側 遺構①	69
第27図	FKJ05-3 遺構⑧-2	30	第61図	FKJ06-2南側 遺構②	70
第28図	FKJ05-3 遺構⑨	31	第62図	FKJ06-2南側 遺構③	71
第29図	FKJ05-3 遺構⑩	32	第63図	FKJ06-2南側 遺構④	73
第30図	FKJ05-3 遺構⑪-1	33	第64図	FKJ06-2南側 遺構⑤	74
第31図	FKJ05-3 遺構⑪-2	34	第65図	FKJ06-2南側 遺構⑥	76
第32図	FKJ05-4 遺構配置図	35-36	第66図	FKJ06-2南側 堆積状況	77
第33図	FKJ05-4 遺構①-1	38	第67図	北人分門の周辺遺構図	78
第34図	FKJ05-4 遺構①-2	39	第68図	FKJ06-2・3街区割図	79
			第69図	FKJ06-2・3(B街区) 遺構配置図	83-84
			第70図	FKJ06-2・3(B街区) 遺構	85
			第71図	FKJ06-2・3池62526 1・2期	86
			第72図	FKJ06-2・3池62526 3・4期	87
			第73図	FKJ06-3 河川63520堆積状況・獣骨出土状況	88
			第74図	FKJ06-3 B C屋敷地周辺の遺構	89-90
			第75図	FKJ06-3(C D E街区) 遺構配置図	91-92
			第76図	FKJ06-3(B C街区) 水道関連遺構	93
			第77図	FKJ06-3(C街区) 堆積状況	94
			第78図	FKJ06-3 池63064	95
			第79図	FKJ06-3(C D街区) 遺構	96
			第80図	FKJ06-3(D E街区) 遺構配置図	97-98
			第81図	FKJ06-4 遺構配置図	101-102

第82図	FKJ06-4	屋敷地⑤	遺構配置図	.....103	第125図	陶磁器・瓦 (06-1・2)	.....151
第83図	FKJ06-4	屋敷地⑤～④	遺構	.....104	第126図	陶磁器 (06-2・3)	.....152
第84図	FKJ06-4	屋敷地④	変遷 1	.....105	第127図	陶磁器 (06-3)	.....153
第85図	FKJ06-4	屋敷地④	変遷 2	.....106	第128図	陶磁器・瓦 (06-3)	.....154
第86図	FKJ06-4	屋敷地④	遺構 1	.....107	第129図	陶磁器 (06-3)	.....155
第87図	FKJ06-4	屋敷地④	遺構 2	.....108	第130図	陶磁器 (06-3)	.....156
第88図	FKJ06-4	砂利敷道路 2・水路64012・溝64069		.....109	第131図	陶磁器 (06-3)	.....157
第89図	FKJ06-4	水路64012・溝64069	堆積状況	.....110	第132図	陶磁器 (06-3)	.....158
第90図	FKJ06-4	屋敷地⑤西側	遺構配置図	.....111	第133図	陶磁器 (06-4)	.....159
第91図	FKJ06-4	屋敷地③西側	遺構	.....112	第134図	陶磁器 (06-4)	.....160
第92図	FKJ06-4	屋敷地③東側		.....113	第135図	陶磁器 (06-4)	.....161
第93図	FKJ06-4	屋敷地③～②	区画溝64008	114	第136図	陶磁器 (06-4)	.....162
第94図	FKJ06-4	屋敷地③～②	区画溝およびその周辺の遺構	.....115	第137図	陶磁器 (06-4)	.....163
第95図	FKJ06-4	屋敷地②	遺構配置図	.....116	第138図	陶磁器 (06-4)	.....164
第96図	FKJ06-4	屋敷地②	遺構	.....117	第139図	陶磁器 (06-4)	.....165
第97図	FKJ06-4	屋敷地②	北側区画溝およびその周辺の遺構	.....118	第140図	陶磁器・瓦 (06-4)	.....166
第98図	FKJ06-4	水路64027		.....119	第141図	漆器碗①	.....184
第99図	FKJ06-4	暗渠 (木樋) 64121		.....119	第142図	漆器碗②	.....185
第100図	FKJ06-4	砂利敷道路 1・水路64027・暗渠64121・区画溝64065		.....120	第143図	漆器碗③	.....186
第101図	FKJ06-4	屋敷地①・土居周辺	遺構配置図	.....122	第144図	漆器碗④	.....187
第102図	FKJ06-4	屋敷地①・土居周辺	遺構 1	.....123	第145図	木製品①	.....189
第103図	FKJ06-4	屋敷地①・土居周辺	遺構 2	.....124	第146図	木製品②	.....190
第104図	FKJ06-4	外堀		.....125-126	第147図	木製品③	.....191
第105図	FKJ06-4	外堀東岸杭列		.....127	第148図	木製品④	.....192
第106図	FKJ06-4	最上層の遺構 1		.....128	第149図	木製品⑤	.....193
第107図	FKJ06-4	最上層の遺構 2	井戸64040	.....129	第150図	木製品⑥	.....194
第108図	FKJ06-4	最上層の遺構 3		.....130	第151図	下駄①	.....196
第109図	陶磁器 (05-3)		石組溝64046・土坑64007	.....135	第152図	下駄②	.....197
第110図	陶磁器 (05-3)			.....136	第153図	下駄③	.....198
第111図	陶磁器 (05-3)			.....137	第154図	下駄④	.....199
第112図	陶磁器 (05-3)			.....138	第155図	下駄⑤	.....200
第113図	陶磁器 (05-3)			.....139	第156図	木筒・墨書	.....201
第114図	陶磁器 (05-3)			.....140	第157図	北人分門付近石垣刷木	.....203
第115図	陶磁器 (05-3)			.....141	第158図	武器・武具類	.....205
第116図	陶磁器 (05-3・4・05-3)			.....142	第159図	煙管	.....205
第117図	陶磁器 (05-4)			.....143	第160図	農工具類	.....206
第118図	陶磁器 (05-4)			.....144	第161図	彈丸	.....206
第119図	陶磁器 (05-4)			.....145	第162図	金属製品 日用品①	.....207
第120図	陶磁器 (05-4・06-1)			.....146	第163図	金属製品 日用品②・その他	.....208
第121図	陶磁器・瓦 (06-1)			.....147	第164図	銭貨	.....209
第122図	陶磁器・瓦 (06-1)			.....148	第165図	鍛冶関連遺物	.....210
第123図	陶磁器 (06-1)			.....149	第166図	石瓦①	.....215
第124図	陶磁器・瓦 (06-1)			.....150	第167図	石瓦②	.....216
					第168図	石瓦③	.....217
					第169図	石臼	.....218
					第170図	バンドコ (行火)	.....219
					第171図	容器状石製品	.....220
					第172図	硯・砥石	.....221
					第173図	その他の石製品	.....222
					第174図	建物の合成と復元	.....225
					第175図	古代の遺構 (FKJ06-2・3)	.....226
					第176図	柱穴列・建物・溝 (FKJ06-2・3)	.....227
					第177図	古代の遺物① (FKJ06-2・3)	.....229

第178図	古代の遺物② (FKJ06-2・3)	230
第179図	古代の遺物③ (FKJ06-2・3)	231
第180図	古代の遺物④ (FKJ06-2・3)	232
第181図	溝・井戸 (FKJ06-4)	235
第182図	古代の遺物⑤ (FKJ06-4)	236
第183図	古代の遺構 (4号線地点との合成)	239
第184図	屋敷地の変遷①	282
第185図	屋敷地の変遷②	284
第186図	足羽郡の棟相	289

福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査 機器分析結果 図1~22	243~245
----------------------------------	---------

断面観察結果 写真1~30	247~250
---------------	---------

福井城跡出土木製品の樹種調査結果 拡大顕微鏡写真	256~264
-----------------------------	---------

福井城跡から出土した動物遺存体	
図1 動物遺存体組成	265
写真1 土坑53032 イヌ	277
写真2 土坑63521 イノシシ下顎骨	278
写真3 土坑63521 ニホンジカ・イノシシ	279
写真4 屋敷地川埋め立て層 イノシシ	280

## 目 次

第1表	各調査区の調査期間	2
第2表	H17・18年度の福井城跡関連教育・普及活動	2
第3表	福井城下の変遷を示す絵図	3
第4表	FKJ06-2 石垣刻印一覧表	66
第5表	陶磁器観察表	167
第6表	瓦観察表	180
第7表	出土木製品一覧表	183
第8表	漆器桶上塗り一覧表	187
第9表	漆器碗観察表	188
第10表	木製品観察表	195
第11表	下駄一覧表	195
第12表	下駄観察表	202
第13表	木簡一覧表	202
第14表	墨書一覧表	202
第15表	武器・武具類観察表	211
第16表	煙管観察表	211
第17表	農工具類観察表	212
第18表	日用品・その他 観察表	212
第19表	銭貨観察表	213
第20表	彈丸観察表	213
第21表	鍛冶関連遺物観察表	213
第22表	石瓦観察表	217
第23表	石臼観察表	218
第24表	バンドコ (行火) 観察表	219
第25表	容器状石製品観察表	224
第26表	石製品観察表	224
第27表	碁石観察表	224
第28表	器種の分類と構成	228
第29表	古代の遺物観察表① (FKJ06-2・3)	233
第30表	古代の遺物観察表② (FKJ06-4)	236

第31表	調査地周辺の屋敷地名義の変遷	286
第32表	遺構観察表①	293
第33表	遺構観察表②	294
第34表	遺構観察表③	296
第35表	遺構観察表④	296
第36表	遺構観察表⑤	297
第37表	遺構観察表⑥	299

福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査	
表1 調査資料	242
表2 蛍光X線分析の結果一覧表	246
表3 断面観察結果表	251

福井城跡出土木製品の樹種調査結果 福井城跡出土木製品同定表	255
----------------------------------	-----

福井城跡から出土した動物遺存体	
表1 種名表	266
表2 イヌ頭蓋骨の計測値	271
表3 イヌ下顎骨の計測値	271
表4 イヌ四肢骨の計測値	271
表5 イノシシ頭蓋骨計測値	271
表6 イノシシ下顎骨計測値	271
表7 土坑63521 イノシシ臼歯計測値	272
表8 イノシシ四肢骨の計測値	272
表9 ニホンジカ四肢骨計測値	272
表10 動物遺存体集計表 (1)	272
表11 動物遺存体集計表 (2)	273
表12 動物遺存体一覧表 (1)	274
表13 動物遺存体一覧表 (2)	275
表14 動物遺存体一覧表 (3)	276

## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査の契機

福井城跡がある福井駅周辺では、再開発事業などと一体となりJ R北陸線連続立体交差事業や駅前地下駐車場建設など大規模な開発事業が目白押しである。そのため、福井城跡の発掘調査が本格化した10年前とは駅周辺の景観は一変している。そういう中でさらなる地域活性化をねらい、北陸新幹線福井駅部の事業が計画された。具体的には、日本海国土軸の形成や東海道新幹線の代価補完機能を確保するための重要な国家的プロジェクトである事、また都市圏はもとより沿線各県との交流を飛躍的に活発化させ、地域の産業や経済の発展に大きく寄与するものという事で計画された。

今回の調査地の西側隣接地は、平成8年～10年に高架側道4号線で、平成12年～14年には連続立体交差事業で本調査をしており、その結果から本調査区に遺構が存在している事は明白であり、そのため今回は試掘調査を実施せず、その以前の調査結果により調査計画を立案した。その中で、18年度は福井市周辺でも発掘調査が複数あり、作業員や駐車場の確保が困難である事などから、調査の一部を外部委託する事となった。平成17年5月に、初めて鉄道建設・運輸施設整備支援機構と打合わせを行い、その後えちぜん鉄道や駅周辺整備事務所などとも協議を重ね、8月下旬から表土剥ぎを行い、9月12日から調査を開始した。

### 第2節 調査の経過

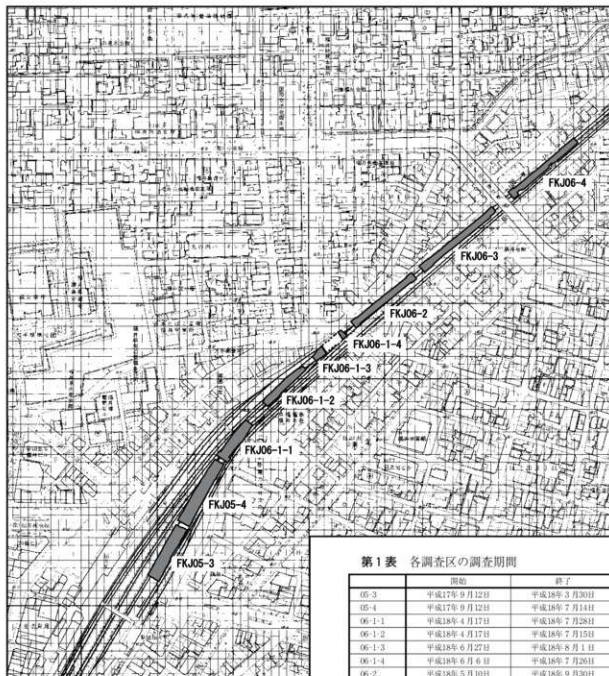
調査区は南側からFKJ05-3、05-4、06-1、06-2、06-3、06-4地区とし(第1図)、平成17年度は05-3、05-4地区の調査を、18年度は05-4、06-1～06-4地区の調査を行った(第1表)。

平成17年度は、9月12日に調査を開始した。05-3地区は、当初全面2面の遺構面が存在し、平成17年と18年に調査する予定であったが、上層は多くがすでに削平されていた。そのため、17年度は05-3地区を重点的に調査し終了させ、05-4のみ18年にも調査する事とした。

平成18年度は、4月の当初は表土剥ぎやえちぜん鉄道の路線切り替えなどのために、17年度からの継続調査の05-4地区のみの調査であったが、その後順次始まり、最後に06-2地区が5月10日に開始された。06-1-4地区は、当初予想された位置で石垣が検出されず、再度重機で調査区を拡張した結果、石垣は近代以降の攪乱のために削平されて残存しない事が確認され、堀の傾斜面のみが検出された。06-1-2と06-2地区の堀では掘削面の東西側の崩壊が危惧され急遽、土嚢の積み直しや埋め戻しを行った。06-2～4地区は、それぞれ南側から調査し、以前の西側の調査で検出された堀や道路・溝などを参考に、屋敷地を意識しながら調査した。古代の包含層や遺構が一部で検出されたが少なかった。すべての調査は、06-2と06-3地区の9月30日をもって終了した。

なお、平成18年5月下旬には工事立会ではあったが、05-3地区と05-4地区の間で調査を行い、砂利敷道路とその石積側溝を検出した。また、平成18年12月12日～26日には06-3地区の北側と06-4地区の南側でも工事立会を実施した。

調査期間中には、現地説明会を中心に、教育・普及活動を多く実施した(第2表)。その中でも平成18年6月の説明会では、200名を超える参加者があり、文化施設以外の場所である福井駅コンコースでの展示も行った。



第1図 調査区域図 (S=1/5000) 上が座標北

第1表 各調査区の調査期間

	開始	終了
05-3	平成17年9月12日	平成18年3月30日
05-4	平成17年9月12日	平成18年7月14日
06-1-1	平成18年4月17日	平成18年7月28日
06-1-2	平成18年4月17日	平成18年7月15日
06-1-3	平成18年6月27日	平成18年8月1日
06-1-4	平成18年6月6日	平成18年7月26日
06-2	平成18年5月10日	平成18年9月30日
06-3	平成18年4月12日	平成18年9月30日
06-4	平成18年5月1日	平成18年7月31日

第2表 H17・18年度の福井城跡関連教育・普及活動

順 号	期 日	開催団体	場 所	参加人数	内 容
1	H17～H18年度	県新幹線建設推進課	福井城跡現地	-	現地説明など 新幹線建設推進課のホームページに掲載工事の進捗状況の一環として、発掘の状況を紹介
2	H18.6.4	県新幹線建設推進課	福井城跡現地、 福井駅コンコース	約200名	現地説明、 遺物・パネル の展示・解説 「もっと知りたい! 北陸新幹線福井駅ふれあい探検」の一環として 一般対象
3	H18.6.27	県生活学習館	福井城跡現地	約50名	現地説明 福井ライフ・アラダー職士学習講座「ふるさとの歴史講座」の受 講生対象
4	H18.7	福井市	福井城跡現地	約20名	現地説明 福井駅周辺の再開発関連として、後にケーブルテレビでも放送
5	H18.7.22		福井城跡現地	約150名	現地説明 一般対象
6	H18.7.28	鉄道建設・運輸整備支庁機構	福井城跡現地	約10名	現地説明 北陸新幹線視察の北海道・札幌市議員団対象
7	H18.8.5		福井城跡現地	約30名	現地説明 「親子見学会」と題し、小・中学生と保護者を対象
8	H18.8	地元子供会	福井城跡現地	10名程度	現地説明 地元の子供会が、夏休みの宿題の増新関の取材に来る
9	H18.8	県新幹線建設推進課	福井城跡現地	3名	現地説明 総合政策部長などが、北陸新幹線開通として見学
10	H18.9	鉄道建設・運輸整備支庁機構	新幹線建設用地内	-	写真などの パネル貸出 北陸新幹線工事の起工式において

## 第2章 位置と環境

### 第1節 城下絵図にみる調査区とその周辺

近世福井城（北庄城）は、徳川家康の次男結城秀康の入封以降廃藩に至るまで越前松平家の居城として越前の中心的都市であった。1600年、関ヶ原合戦の功により結城秀康は、幕府より越前68万石を拝領し、翌1601年北庄に入り築城を開始した。その後約6年を経た1606年に一応の完成をみたとされる。考古学調査成果から見ると、その後も造成を繰り返し、石垣・堀等城郭部分を含め改修・整備し続ける。城下の最も大きな改修は寛文の大火（1669年）直後の復興期で、絵図上平面的には屋敷割り等部分的変化に留まるが、発掘調査では盛土と溝の改修等大規模工事が行われたことが証明されている。1686年「貞享の大法」では石高をほぼ半分に減らされた結果、大量の藩士が浪人し、主に城下南西の武家屋敷地が空き地となった。また、これを機に改修された道路もある。以降幕末には32万石まで回復し、明治維新・廃藩へと至る。

福井城は創建直後の慶長期から寛文の大火や貞享の大法等劃期の前と後、江戸中期から幕末に至る各時期の絵図が多数残る。城下の変遷を知る上で資料とした絵図は第3表のとおりである。

第3表 福井城下の変遷を示す絵図

いずれも松平文庫蔵（福井県立図書館保管）史料である。

	名称	内容時期	松平文庫整理番号	本文中呼称
創建（1601）以降	「北之庄城郭図」	慶長18年頃	No1309	慶長図
寛文の大火（1669）以前	「御城下之図」	正保期	No1322	正保図
	「御城下之図」	万治2年以前	No1314	万治図
	「御城下絵図」	寛文年間（大火以前）	No1319	大火前図
寛文の大火（1669）直後	「御城下絵図」	寛文10年	No1317	大火後図
貞享の大法（1686）直前	「福図御城下絵図」	貞享2年	No1320	貞享図
貞享の大法（1686）以後	「御城下之図」	正徳4年	No1325	正徳図
松岡臺統合（1722）以降	「福井分間之図」	文化8年	No1340	文化図
32万石加増（1818）以降	「御城下之図」	慶応年間	No1342	慶応図

以上の資料を参考に各絵図に調査区を重ね合わせ、周辺の様子についてみてゆきたい。

調査区は工事区画に従い大きく5つに区分される。この5つの地区を南からFKJ05-3・05-4・06-1・06-2・06-3・06-4と、調査区次数番号を付けた（第1・2図）。以降、この次数毎に説明する。

調査地は絵図類によると福井城東三の丸・百間堀・東外郭にあたり、上・中・下級武家屋敷を貫く。

FKJ05-3・4区は百間堀南岸の三の丸・中の馬場地区にあたり、百間堀と三の丸堀に囲まれる。東面（三の丸堀面）は高石垣と三つの門で防衛線を敷く。基幹道路は南北路1条（中の馬場：道幅4間）、小桜門・桜木門から発する東西路2条（道幅4間）、百間堀岸の1条（道幅4間）である。なお、漆門・春秋門にも近い郭南側の結城晴朝邸正面には堀を構え、前面を広場とした特異な空間をつくる（兵の溜まりか）。郭内は主に上級武士の屋敷が多く、屋敷毎の敷地面積も広い。今回の調査区から外れるが、郭南側の3軒分の区画に結城秀康の養父結城晴朝も屋敷を構えた（第3図 慶長図）上級武士を中心とした屋敷街である。この郭の北西部は「寛文の大火（1669年）」後、地目が大きく一変する（第5図 大火後図）。大火の反省から、本丸への飛び火を避けるため屋敷を移動させ、「御菜園」（＝火除け空地）としたことは江戸等の状況と類似する。今回の調査ではFKJ05-4区が御菜園地区の一部にあたる。

FKJ06-1区は百間堀および百間堀南岸石垣・土橋・百間堀北岸石垣にあたる。実際の土橋遺構では石

垣の崩壊・修築を繰り返したことが観察できたが、絵図上では全時期を通じ変化はみられない。

FKJ06-2区は東三の丸の堀で南北を二分される。南半は元割場と呼ばれ武家屋敷と北人分門の枳形虎口部分にあたる。東三の丸の堀部分は、慶長期には武家屋敷（第3図 慶長図）だが、正保期までに堀が閉塞される（正保図）。福井城全体で見た場合、東側元割場部分が防備上の弱点となることから堀と2カ所の門を増設したと考えられる。

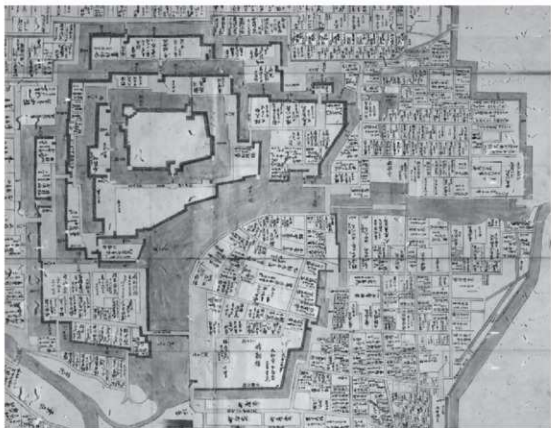
堀を隔てたFKJ06-2区北半からFKJ06-3区は中・上級武士の屋敷街である。街区は北人分門から堀沿いに北へ延びる道（道幅4間）を基幹とし、これに同門外から東へ延びる道（道幅3間）を含む3条の東西路を設定し街区を形成する。さらに各屋敷門前に至るための小路を設定する。FKJ06-2区北半からFKJ06-3区南半は上級武家屋敷地である。FKJ06-3南半の上級武家屋敷から東は慶長図には「沼地」と記されている。その後、万治図以降17世紀代は「杉田与力屋敷」と記される。付近は天草町と称され、島原の乱に際し従軍した藩士に屋敷地を賜ったことからはじまるとされる。下級武士のため他の与力屋敷同様、各家の屋敷境は記されていない。「貞享の大法（1686年）」以降、与力屋敷ではなくなり、各家に屋敷境の線が引かれ、個人名が記される（正保図）。その後幾つかの屋敷が統合され、1屋敷あたりの面積が広がった（第9図 文化図）。絵図では不明な杉田与力屋敷内の状況について考古学的調査で明確にできるかが焦点となった。

FKJ06-4区は中・下級武士の屋敷街と外郭を守る土塁及び堀にあたる。屋敷地の住人は変化するが、慶長図以来、絵図上で街区・屋敷割りに大きな変化の最も少ない地区である。

以上、調査地全体について絵図上での変遷を略述した。各調査地区の詳細は以降参照されたい。



第2図 福井城における調査地の位置 (S=約1/9000) 上が北



第3図 福井城本丸と調査地周辺①「北之庄城郭図」1309 松平文庫蔵 (福井県立図書館保管)

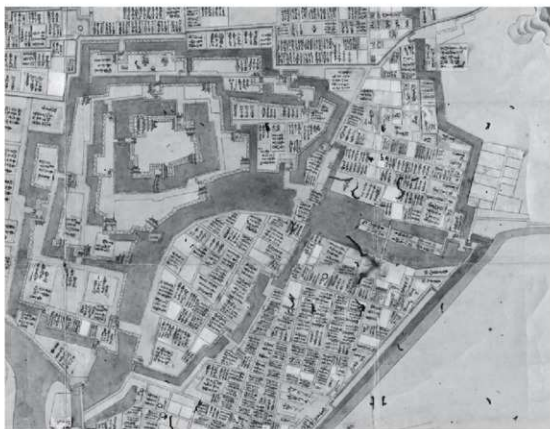


第4図 福井城本丸と調査地周辺②「御城下之図」1314 松平文庫蔵 (福井県立図書館保管)

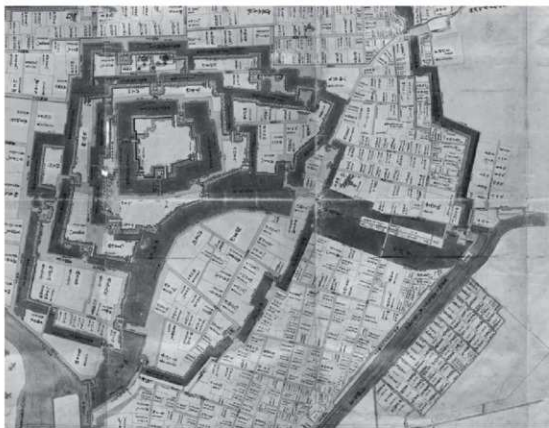




第5図 福井城本丸と調査地周辺③「御城下絵図」1319 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）



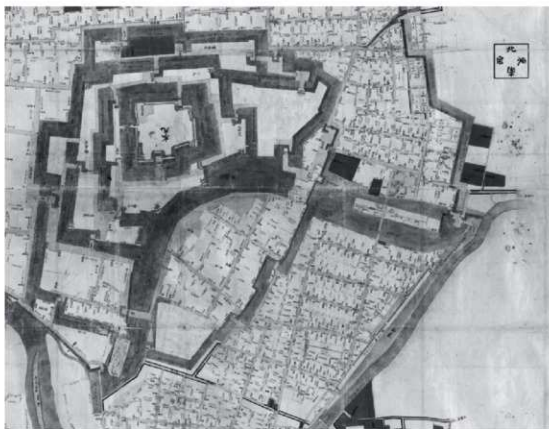
第6図 福井城本丸と調査地周辺④「御城下絵図」1317 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）



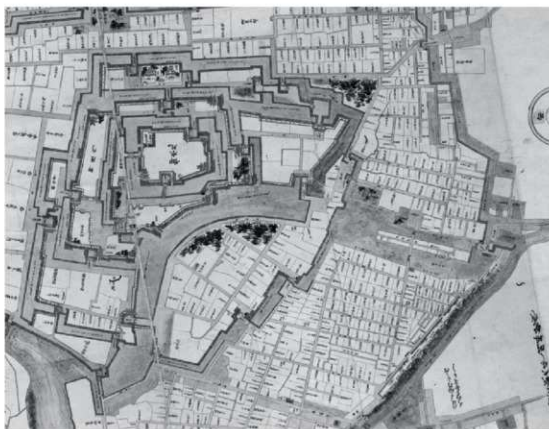
第7図 福井城本丸と調査地周辺⑤「福居御城下絵図」1320 松平文庫蔵 (福井県立図書館保管)



第8図 福井城本丸と調査地周辺⑥「御城下之図」1325 松平文庫蔵 (福井県立図書館保管)



第9図 福井城本丸と調査地周辺⑦「福井分間之図」1340 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）



第10図 福井城本丸と調査地周辺⑧「御城下之図」1342 松平文庫蔵（福井県立図書館保管）

## 第2節 福井城下・各調査区における基本層序

調査地は、福井城の東から北東へ抜け、総延長800mと長大であるため調査区毎に自然地形や開発の様相が大きく異なる。ここでは全調査区の土層堆積状況を南から追ってゆく。

全調査区を概観すると、ベースとなる地山は福井城下調査各地点と同様、青灰色粘質土層が広がりその下部は砂質シルト層で多くの水分を含み、湧き水源となる。地山は百間堀を挟み標高7.3m前後で、北のFKJ 06-4区北半部あたりで上昇し7.6mとなる。また、標高7.8mから上層は総て削平され生活面が残らない。

### 1 中の馬場地区 (第11図)

FKJ05-3・05-4・06-1区は百間堀の南・東岸にあたり、本来吉野川の川岸あるいは中州であったと思われる。地山の標高は、Aでは7.0mを測るが、BからFでは7.4m前後まで高まる。Gでは川に由来する自然の段丘があり、6.3mまで約1m急激に下がる。川辺(百間堀)へ向かい下りながら、Hでは5.8mとなり福井城期の石垣に切られる。

堆積状況は、BからFについては近代以降の掘削が面的に及び、福井城期の生活面や整地・盛土層が良好に残る部分が少なかった。しかし、AやGのように地山の低い部分では盛土層が確認された。古い順にみてゆくと、Gで確認された溝54280が最も古く、出土遺物から16世紀中～後期、朝倉期まで遡ると考えられる。朝倉期の盛土層は確認されず、地山面が生活面であったと考えられる。Aの土坑53032は遺物から結城秀康入城直前頃の遺構と考えられる。標高7.0mの地山を切り込み、この時期の整地土層は確認されておらず、地山面が福井城期以前の生活面と考えられる。遺構53101は53032を切るが遺構面は53032と同じく地山面であろう。出土遺物が唐津焼中心であるため17世紀初頭、福井城創建期頃と考えられる。53101上、標高7.4mまで約0.4m造成し、屋敷溝53005を掘削する。出土遺物から17世紀前半頃と考えられる。整地土の標高7.3m以上は現代の攪乱により失われる。

Gでは標高7.3mの地山面が標高6.4mまで0.9m程度急に落ち込む。この落ちの段は吉野川(百間堀)の段丘と考えられる。この段を嵩上げする盛土層は大きく上・下層2つに分けられる。段の底面、地山上の1面目で確認された遺構は溝54280のみである。断面は薬研掘りではほぼ東西方向に通る。出土遺物から16世紀半ばから後期(朝倉期)に相当する。同時期の薬研掘り溝遺構が県営地下駐車場地点(FKJ02-3地区)でも確認されており、吉野川(百間堀)東岸の計画的開発がこの時期に始まると考えられる。この地山1面目に0.6m厚で盛土する(盛土下層)。層内出土遺物の大半は土師質皿や瀬戸美濃焼大窯期で占められるが、わずかに唐津焼も混じる。この唐津焼を盛土上層遺物の混入と考えれば造成時期は北庄城(豊臣)期と捉えられ、唐津焼出土を重視すれば瀬戸美濃大窯遺物は、福井城創建にあたり他所の北庄城関連遺構を削平して当所に客土したとも考えられるが、いずれとも即断は難しい。盛土下層上面(2面目)では明確な遺構を確認できなかったが、遺構54278はこの面の遺構と考えられる。出土遺物は唐津焼主体で、盛土下層出土遺物より新しい様相を呈する。盛土上層上面(3面目)でも遺構は確認されず、平面は凹凸の多い荒れた状態である。盛土上層内出土遺物は、瀬戸美濃大窯製品が多く混じるが、唐津焼の他初期伊万里焼も出土する。被災遺物や焼土が混じらないことから17世紀前～中期、寛文の大火以前の造成と考えられる。

Fの遺構出土遺物を見ると、被災遺物が混じり、寛文の大火(1669年)直後の復興期盛土層と考えられる。BからEでは地山直上で18世紀以前の整地層は確認されず、福井城末期・19世紀前後の層のみである。遺構の多くは19世紀代であり、Dでは遺構54014・54015等17世紀前後の遺構も見えるが、断面観察では遺構上部を削られた状況を観察できる。

## 2 百間堀地区 (第11図)

HからJまでは百間堀および百間堀を渡る土橋、さらに土橋を挟んで東三之丸堀の一部にあたる。百間堀中程は調査されなかったため最深部の状況は不明である。Hの石垣基底部は標高4.8mを測る。石垣端から急激に落ちる。堀底は4.0mまで確認した。土層が粘質土から砂質シルトに変わる標高4.0~4.5mで湧水する。

土橋 (I) は百間堀側 (H) が基底部標高4.4m、確認地点では笏谷石材9段、2.6mを積む。東三の丸堀側 (J) では8段・2.1mを積む。石垣基底部は標高4.7mで百間堀側に比べ0.4mほど高い。土橋本体は土砂を地山面から約2m盛り上げ石垣を築き護岸する。土橋上の遺構面 (道路面) は標高6.7m・6.5mで2面確認された。地山が砂質シルトと脆弱なため大小幾度となく崩壊・積み直しがなされ、盛土層への切り込みが多数見られる反面、土橋の中心部分は水平堆積のままであり、深刻な盛土層の乱れは確認されなかったことから完全崩壊はなかったと推測される。JのK側は東三の丸堀東岸石垣にあたるが、近代以降に大きく擾乱を受けたため石垣は全く確認されなかった。堀内最深部は3.8mまで確認した。又、最も確認面は標高6.1mだが上部も削平されており当初の遺構面は残らない。

Kは屋敷内に当たる。上部は削平を受け、最もよく残る部分で標高7.3mを測る。

## 3 東総構地区 (第11・12図)

FKJ06-2 (南側) 地区は、本来朝倉期頃まで人の住まない自然河川岸の低地であった。福井城創建以後、本格的に造成し屋敷地とした。地山は、Lの河川岸では標高6.6m、Nでは6.0mとなる。河川内については標高5.0mまで確認したが湧水等によりそれ以下の確認は出来なかった。Lでは標高6.9mまで古代から中世に至る東西方向の自然河川の埋没過程がみられた。MからNでは南北方向流路の堆積状況が確認される。流路は標高7.4mから落ち込み、5.7mまで確認された。Nの断面の中世堆積層や溝遺構62057・076を南北流路が切るように見られるため、福井城期以前、織豊期に掘削された溝 (堀) の可能性が高く、今後の周辺での調査が期待される。南北流路は福井城創建期に埋め立て整地され、標高7.4mで福井城期の確認面となる。

Oの堀は慶長以降新たに掘削されたもので、石垣基底部では標高5.8m、堀最深部は標高4.3mを計る。福井城期遺構 (確認) 面より約3.2m掘削する。堀は断面の状況から自然河川や低地とは無関係に開削したものとわかる。

Pは堀端の砂利敷き道路 (道3) である。古代包含層を最大0.35m掘削し、屋敷地に対し段差を設ける。H同様堀側へ傾斜し、水はけに配慮する。

Qは武家屋敷にあたるが、古墳時代以来の遺跡と重複する。地山は標高7.0m前後だが、堀に近い側では0.15m程度高くなる。地山直上で遺構は確認できなかったが、厚0.1mの堆積層上が古墳時代遺構面となる。平安時代面は標高7.3m前後であるが、堆積層を7.3mの面より0.1m程度下で確認できる遺構もあるため、標高7.3mより下に平安時代第1面が想定されるが平面的に確認できなかった。平安時代面から黒褐色土が約0.25m堆積した標高7.5mで16世紀面が広がり、遺構も多く検出された。福井城期の遺構面は、標高7.7mより上は近代以降の削平を受け、深い遺構のみが残った。

Rは自然河川63520にあたる。Qからつづく南岸では古代から中世までの自然の川岸および流路 (又は窪み?) を埋め立て、平坦面を広げるが、川岸は護岸せずなだらかに落ちてゆく。埋め立てに使用された土砂は、地山の青灰色粘土に古代包含層の黒褐色土がブロック状に多量に混じり、付近の微高地を

削り持ち込まれたと考えられる。埋め立て土内出土物は皆無であり、造成時期の確定は難しいが、直下の中世層との関連や、多量・単一な埋め立て土が得られるのは大規模工事期と特定されることから福井城創建期頃と考えられる。

自然河川63520内は、4号線地点(FKJ97-1)の遺構802・810・814・821・830・831・835に相当するが、堆積が一様ではなく、部分的な掘り直し・底液え等もおこなわれたと考えられ、今回の遺構との対照は難しい。石積みを伴う遺構63090は4号線遺構802に対応する。笏谷石屑の多い堆積土で埋まり、底面の標高は6.3mである。遺構63090下層が4号線遺構821に対応し、底面標高は6.1mである。石積み遺構63090下が4号線遺構831に相当するが平面的には捉えられなかった。遺構63520下層は4号線遺構835・830に相当する。今回の調査では5.2mまでに抑えられたが、4号線地点では遺構835は5.5m、830は4.5mまで確認している。

S・Tは福井城期を通じ屋敷地割の変更が多い場所のため、遺構の切り合いや整地過程が複雑である。地山はR側(自然河川63520側)へ向かい緩やかに下る。Tでは標高7.3mだがSでは7.0mで、比高差は0.3mである。遺構63134や63109等17世紀初期の遺構は、総て地山直上を遺構面として切り込む。以降10数cm単位で部分的な整地をおこなうため面的に遺構を追うことが難しくなるが、17世紀半ばと考えられる遺構63101は標高7.4mから切り込み、池62064の州浜部分も7.4mである。時期不詳ながら江戸時代後半と考えられる道4は7.5mで確認され、新道4(63007)緑石や19世紀の遺物を含む土坑63010が確認された標高7.6mが幕末～近代初期面と考えられるが、若干遺構面が擾乱されていると思われる。これより上は近代以降の盛土である。Tの池63064南岸から自然河川までは地山面近く(標高7.0m)まで掘削され遺構面は残らない。なお、Tの道4から北では古代の遺物・遺構が少量ながら確認され、古代遺跡の縁辺部であったとおもわれるが、包含層は確認できなかった。

Uは道路2および側溝にあたる。最も古い①路面は側溝63233bから玉砂利を敷かない地山直上となる(標高7.2m)。次に②路面は側溝63233を埋め、①路面上に砂利を敷き、側溝63168を新たに開鑿する。砂利厚は約0.05mである。③路面は側溝63168を埋め、②路面上約0.1m程度盛土し、玉砂利を敷き路面とする。なお、②・③路面間に部分的な砂利面があり、更にもう1面存在した可能性が高い。更に③路面を切り溝63002が掘削される。63002と関連する路面は標高7.6mで確認されるが、砂利敷きはみられない。

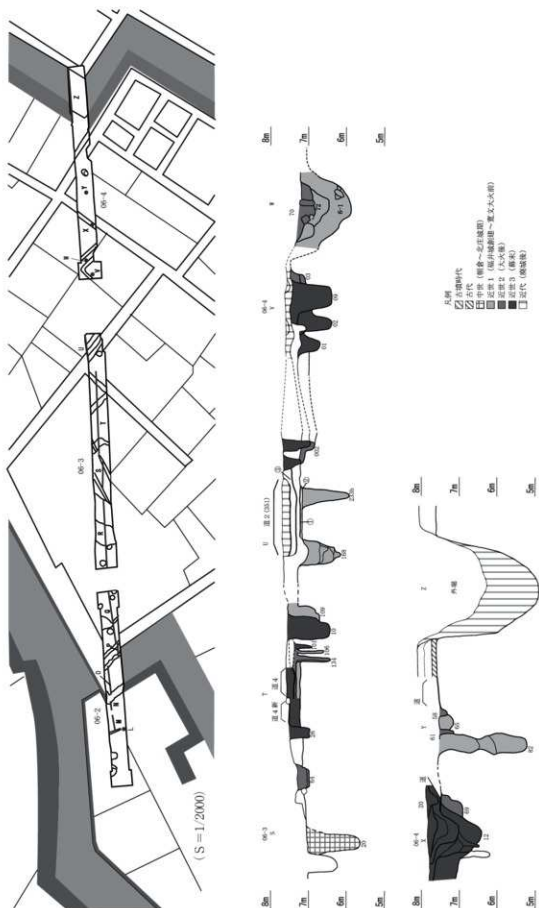
道路2から北側は中・下級武士の屋敷街である。調査では現道の「さくら通り」を越え、さらに北東へ調査区を延ばす。地山は南から北に向かい高まる。VからXでは標高7.0m前後で推移するが、XからZでは標高7.5mに上昇し、Z南側では古代の包含層が確認される。

堆積状況を古い順にみていくと、Zでは標高7.6mの地山面に、約0.1m厚で黒褐色土が堆積する。出土遺物から古代包含層と見られる。中世の包含層・遺物等は見られず、近世福井城期に至り遺構が増加する。微高地となるXからZでは17世紀初期の遺構および砂利敷道路は標高7.5m前後で地山直上に造られる。やや低地のWでは17世紀後半の遺構64070が7.3mで確認される。18世紀後半～19世紀の生活面は、微高地のYでは7.6m以上は近代に削平され残らない。低地のハは7.9mまで約0.4mは19世紀の整地層である。Vも同様19世紀の遺構が切り合い、17世紀代の整地層は確認されなかった。

Zは外堀である。平安時代の包含層を切り、深度3m、底部の標高4.9mの幅で掘削する。堀内の堆積土は、土居を崩した土砂を含め総て近代以降の自然堆積および埋め戻し土で占められ、江戸期の土層は見えない。

郭外にも武家屋敷街が広がるが、周知の遺跡の範囲外となるため残念ながら調査はできなかった。





第12図 調査地上層様式柱状図② (柱状図は高さのみS=1/100)



### 第3章 中・近世の遺構

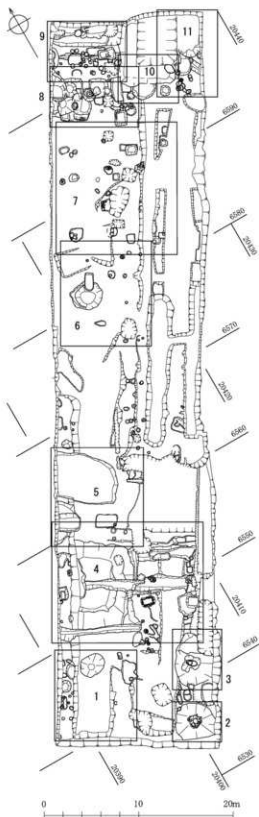
#### 第1節 FKJ05-3地区の調査

**FKJ05-3地区の概要** この調査区は長さ約77m・幅約17mである(第13・14図)。東西方向に延びる溝、地下道、旧駅舎施設などの擾乱で多く削平される。この地区の主要な遺構は、屋敷境となる区画溝・欄列、ゴミ廃棄土坑、井戸、柱穴などで構成される。北側にある礎石群が建物となり、南側には井戸が集まる。調査区中央に南北に延びる柱穴列が区画の欄列であり、南側には東西方向の区画溝が複数ある。調査区南西側にあるゴミ廃棄土坑は福井城築城以前と考えられる。検出された遺構から屋敷割は以下のように考えられる。

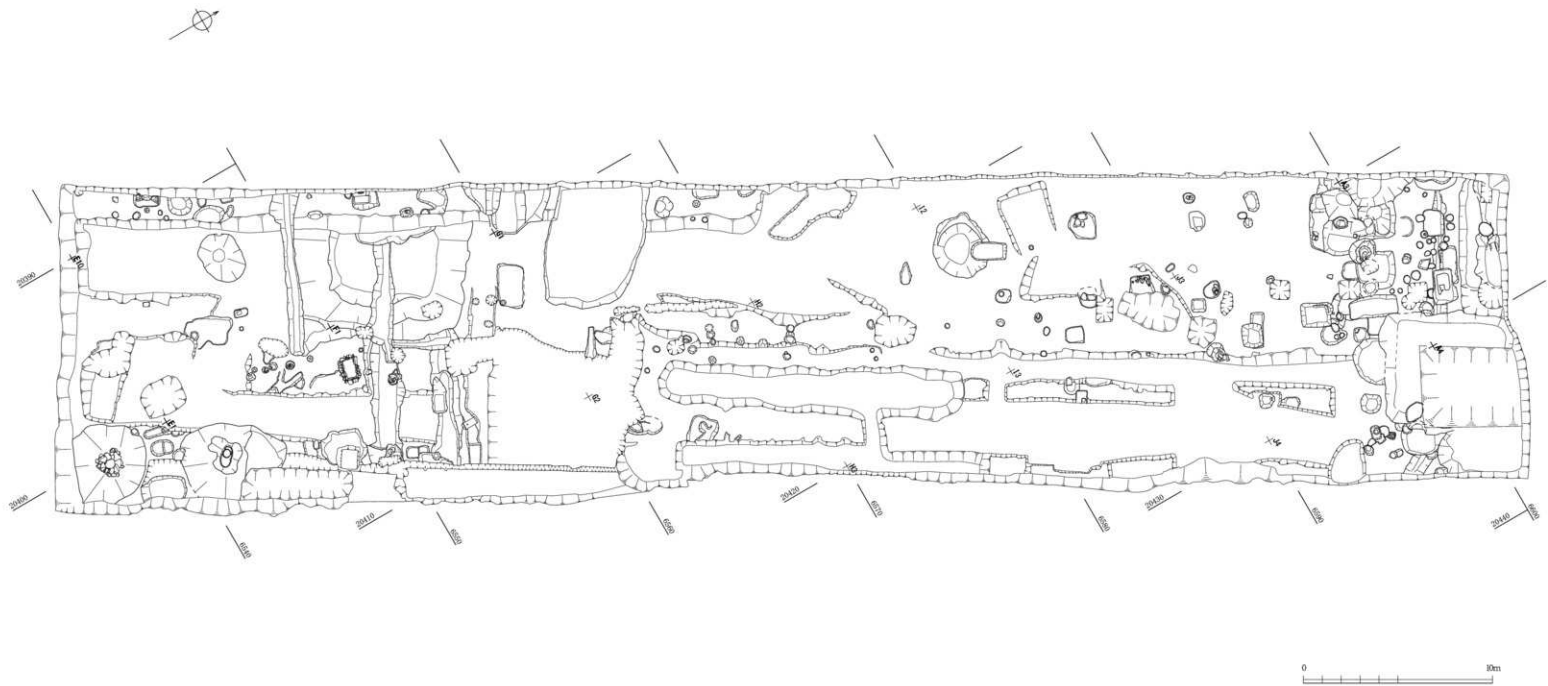
「北之庄城郭図」から、17世紀初頭は区画溝53037で分かれ、南側の屋敷地①が「岸内氏」、北側の屋敷地③が「乙部氏」となる。「福井城下絵図」から17世紀半ば～18世紀初頭は、屋敷地①が「松原氏」、屋敷地③「榊原氏」となり、19世紀初頭には屋敷地①が「大関氏」、屋敷地③が「宮地氏」となり、以降幕末まで屋敷地①が「稲垣氏」、屋敷地③が「花木氏」となる。調査区中央の南北に延びる柱穴列(欄)より西側の屋敷地②は、17世紀半ばが「仙石氏」17世紀後半が「永見氏」、18世紀初頭以降は「牧野氏」となる。以下、屋敷毎に説明する。

#### 1 屋敷地①(第15図～第21図)

調査区の東西端と中央部のみが遺存状態が良く、それ以外は、東西方向に延びる2～4m幅の2本の溝で削平される。区画溝は、複数存在し53037・53043・53144が17世紀初頭で、53005が17世紀前半、53006が18世紀後半～19世紀である。53005は幅約1.4m、深さ1mである。53037は幅2.1m、深さ1.1mである。53144は幅約1.1m、深さ0.7mである。53006は幅2.1m、深さ0.8mである。53043が南北方向で、その他はすべて東西方向に延び、17世紀初頭以外は、調査区内でちょうど鍵の手状に屈折するようである。調査区南端には、井戸が3基ある。2基は桶製の井戸で、もう1基は上部が石積みで、下部が桶製となっている。53141は17世紀初頭のもので、掘方



第13図 FKJ05-3 遺構平面図の区分



第14図 FKJ05-3 遺構配置図 (S=1/200)

は約4.2mである。上部の深さ1.2mまでは石組のみで、それ以下深さ約4mまでは桶を使用する。最下部0.7mほどは、桶のみである。桶の径は約0.7mで、3段積みである。53064は17世紀初頭～18世紀後半のもので、掘方は約5mである。途中で改変が為されている。深さ1.6mで、1.1×0.5mの楕円形の桶が出土し、その中に直径約0.4mの円形の桶が貫通していた。すなわち、本来地表面まで達していた楕円形の桶が、1.6mの深さで0.4mの円形の桶に作り替えられていた。深さは約2.8m以上であり、3段である。井筒からは、釣瓶が出土した。53039は17世紀後半～18世紀前半のもので、掘方は約2.8×2mの楕円形である。深さは1.6m以上、桶は3段以上である。石組の遺構53084は屋敷地北端にあり、長方形を呈し内寸1.2×0.7mで、深さ0.7mである。底部には比較的大きめの石を使用し、積み方は丁寧ではない。

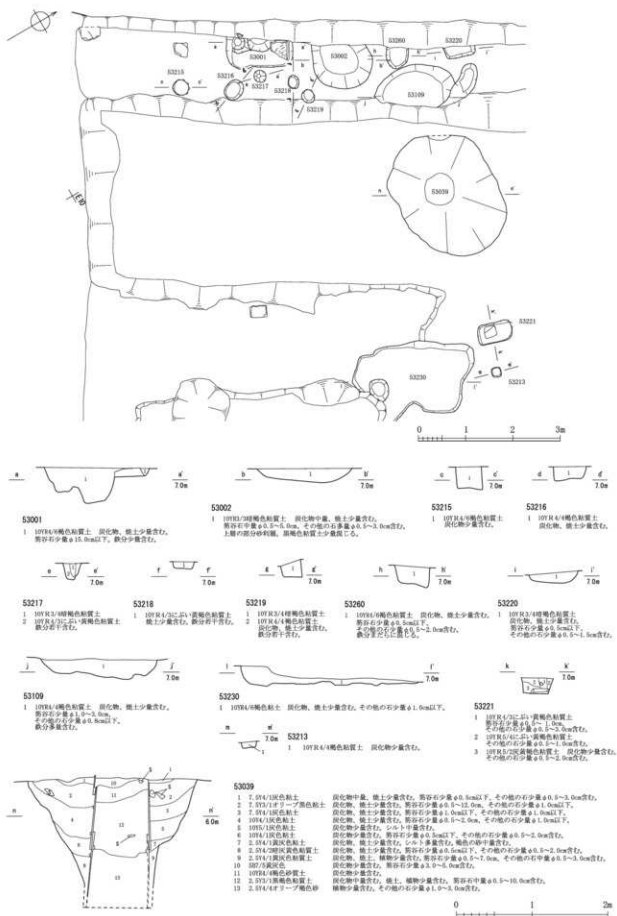
## 2 屋敷地② (第18～20・22～25図)

この屋敷地は北側を中心に、ほとんどが削平されている。土坑53108は深さが1.5mほどだが、大半は攪乱で削平されている。南側の屈曲する溝の北側には、大型のゴミ廃棄土坑53032がある。平面は隅丸方形、断面はすり鉢状を呈し、長さ10m以上、深さ約2.5mを測る。断面を見ると、少なくとも1回掘り直しが行われているが、時期的には変わらず、福井城築城以前のゴミを廃棄したもので、この時期では最大級の規模である。この遺構を切る、ゴミ廃棄土坑53101は、17世紀初頭から前葉の時期である。東側の屋敷地は、南北に延びる柱穴列(柵)だと考えられるが、遺存状況が悪く疑問は残る。

## 3 屋敷地③ (第18～20・23～31図)

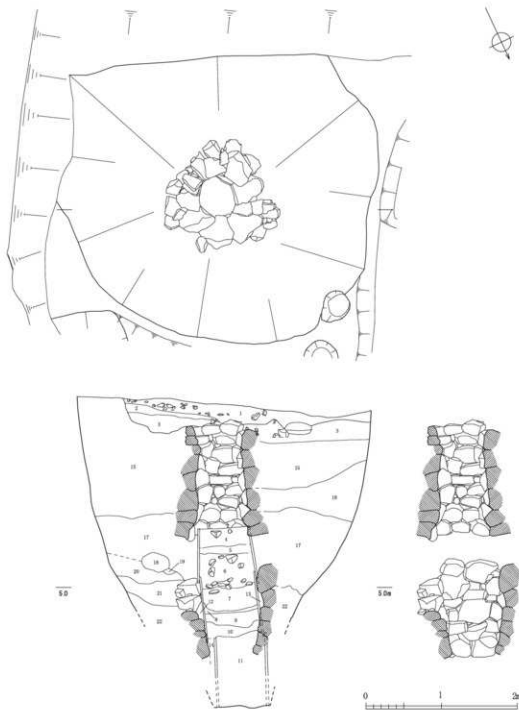
北端には多くのゴミ廃棄土坑がある。これらは重複しており、繰り返し同様の場所でゴミを捨てていた事がわかる。この位置は、屋敷の端の地境近辺であり道路の際である。17世紀前半代ものは無く、17世紀後半～18世紀前半が53012・53028・53036・53072であり、53028以外はすべて平面形が方形となる。18世紀後半～19世紀代は53015・53016・53042・53066がある。17世紀代よりも大型で、特に53042は一辺約7mの方形である。なお、この遺構の土層は、地震の影響によりずれが生じている。

これらのゴミ廃棄土坑群と一部重なり南側には、柱穴や礎石が集中する場所があり、建物を復元する事は出来なかったが、ここに建物があったと考えられる。礎石を持つ柱穴もしくは礎石は53009・53044・53045・53054・53055・53079・53086・53087・53089・53157・53159・53160・53162・53170・53179・53224と番号はないが53027の南側と53044の北側に2箇所ある。これらの礎石群の北側3mほどの位置に溝53113がある。幅0.7m、深さ0.3mで、16世紀末～17世紀初頭の時期である。建物の北側を画する溝とも考えられる。以上のように、北側地区は17世紀前半には建物があったが、17世紀後半以降はゴミ廃棄土坑が占めるように敷地の空間構成が変更となっている。遺構としては、はっきりしないが、土坑53199の辺りが屋敷地②と③の境になると考えられる。この辺りは、攪乱で深く削平されており、土坑53199東西に延びる区画溝の一部であるとも考えられる。53010と53056は共に17世紀初頭の土坑である。53010は直径約3mの楕円形の遺構で、屋敷地②との際にある。53056は調査区北端にあり、北側と西側は調査区外へ延びる。長さ6m、幅2.5m以上である。



第15図 FKJ05-3 遺構① (S=1/80・1/50)

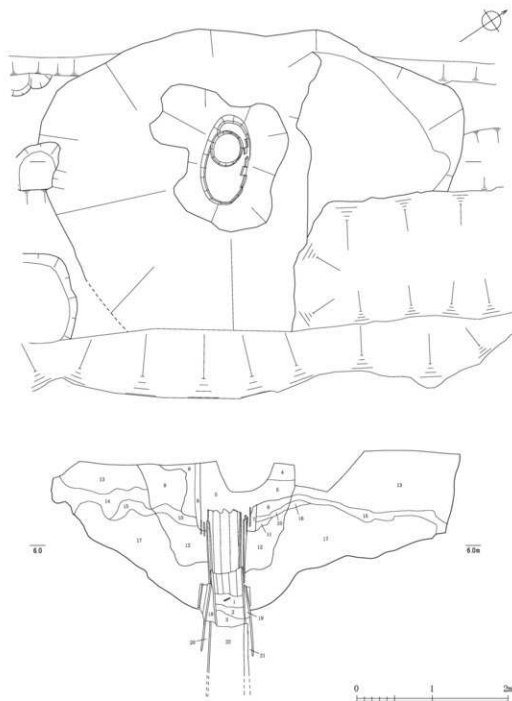
第1節 FKJ05-3地区の調査



53141

- |    |                |  |
|----|----------------|--|
| 1  | 2.014/1黄灰色粘土   | 炭化物少量含む。腐石中量φ20.0cm以下、その他の石少量φ7.0cm以下、鉄分少量含む。              |
| 2  | 10184/6褐色砂     | 炭化物少量含む。鉄分少量含む。  |
| 3  | 2.012/1黒褐色粘土   | 炭化物少量含む。腐石中量φ20.0cm以下、その他の石少量φ8.5cm以下、鉄分少量含む。              |
| 4  | 10182/1黒色粘土    | 炭化物少量含む。腐石少量φ2.0~12.0cm、その他の石少量φ1.0~6.0cm含む。木製品あり、鉄分少量含む。  |
| 5  | 10182/1褐色粘土    | 炭化物、腐土少量含む。腐石少量φ1.0~3.0cm含む。有機物層有り、鉄分少量含む。                 |
| 6  | 2.012/1黒褐色粘土   | 炭化物少量含む。腐石中量φ2.0~18.0cm、その他の石少量φ2.0~18.0cm含む。柱状(中~大)あり。    |
| 7  | 10184/4褐色砂     | その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。                                       |
| 8  | 10184/2C黄褐色砂質土 | 少量粘土ブロックをまじらせた含む。  |
| 9  | 10184/4褐色砂     |  |
| 10 | 10184/1褐色粘質土   |  |
| 11 | 10184/1褐色砂     |  |
| 12 | 10184/6褐色砂     |  |
| 13 | 10182/1黒褐色粘質土  |  |
| 14 | 10184/1褐色砂     | 砂質になる。   |
| 15 | 10184/4褐色砂     | 炭化物、腐土少量含む。腐石少量φ0.5~5.0cm、その他の石少量φ1.0~2.0cm含む。鉄分少量まじらに混じる。 |
| 16 | 10184/3粘土      | 炭化物、腐土少量含む。その他の石少量φ1.0cm以下、鉄分少量含む。                         |
| 17 | 2.012/1黄灰色粘土   | 炭化物、腐土少量含む。腐石少量φ4.0cm以下、鉄分少量含む。                            |
| 18 | 2.014/1黄灰色粘土   | 鉄分少量含む。  |
| 19 | 2.012/1黄褐色粘土   | 鉄分少量含む。  |
| 20 | 10184/6褐色砂     | 鉄分少量含む。  |
| 21 | 2.012/1黒褐色粘土   | 鉄分少量含む。  |
| 22 | 10184/1褐色粘土    | 鉄分少量含む。砂質になる。  |

第16図 FKJ05-3 遺構② (S=1/50)

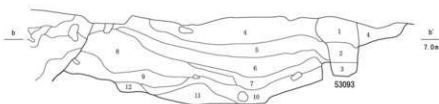


S3064

1	10R3/1 黒褐色粘質土	その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 3.0\text{cm}$ 含む。
2	10R4/4 褐色砂	その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 0.5\text{cm}$ 含む。
3	2.10R7 オープン層 褐色砂	その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 4.0\text{cm}$ 含む。石はほとんど円筒。
4	10R4/6 褐色粘質土	炭化物、粘土少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 0.5\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。鉄分多量含む。
5	10R3/3 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 3.0\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分多量含む。
6	10R3/2 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。その他の石少量 $\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$ 含む。鉄分少量含む。
7	2.10R1 褐色粘土	炭化物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。
8	10R4/2 細かい黄褐色砂質土	炭化物、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 0.5 \sim 0.5\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。オープン層砂と鉄分少量混じる。
9	2.10R14 オープン層 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 3.0\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分多量含む。
10	2.10R13 オープン層 褐色粘質土	炭化物少量含む。その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分少量含む。
11	2.10R11 褐色粘土	炭化物少量含む。鉄分少量含む。
12	2R1 オープン層 褐色粘土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 0.5\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分若干含む。
13	10R4/8 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 0.5\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。鉄分多量含む。
14	10R3/2 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分多量含む。
15	2.10R12 オープン層 褐色粘質土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。黄褐色砂と混じる。
16	2.10R1 オープン層 褐色粘土	炭化物少量含む。珪砂石少量 $\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分と黄褐色砂中量混じる。
17	2.10R11 褐色粘土	炭化物、粘土、植物少量含む。珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 0.5\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 2.0 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。鉄分少量と粘性中量強い。
18	2.10R11 褐色粘質土	
19	2.10R11 褐色粘質土	
20	10R4/6 褐色砂	珪砂石少量 $\phi 1.0 \sim 3.0\text{cm}$ 。その他の石少量 $\phi 1.0\text{cm}$ 以下。
21	10R4/6 褐色砂	
22	2.10R14 オープン層 褐色砂	その他の石少量 $\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$ 含む。

第17図 FKJ05-3 遺構③ (S=1/50)





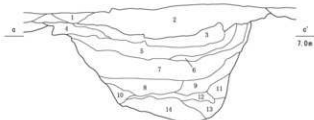
53093

- 1 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5cm以下。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。
- 2 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。土層有り。鉄分少量含む。
- 3 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色土 炭化物。焼土少量含む。その他の石少量φ0.5~1.0cm含む。鉄分少量含む。砂層有る。

- 4 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~0.8cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。土層有り。
- 5 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm以下。土層有り。
- 6 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。腐った木の痕跡あり。
- 7 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。土層有り。鉄分若干含む。
- 8 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~1.0cm含む。砂層有り。
- 9 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~1.0cm含む。鉄分若干含む。
- 10 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~1.0cm含む。鉄分若干含む。
- 11 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~1.0cm含む。鉄分若干含む。
- 12 1018Ⅰ/2Ⅱ黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。鉄分少量含む。

53095

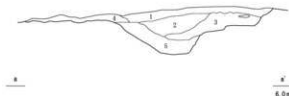
- 1 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~0.8cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。砂層有り。土層あり。
- 2 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分少量含む。



53037

- 1 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。
- 2 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分若干含む。
- 3 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5cm以下。鉄分少量含む。砂層有る。
- 4 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5cm以下。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。
- 5 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~0.8cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分少量含む。
- 6 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm。鉄分少量含む。

- 7 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~0.8cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。
- 8 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分若干含む。
- 9 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分若干含む。
- 10 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物少量含む。
- 11 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物少量含む。
- 12 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ1.0~0.8cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分若干含む。
- 13 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ1.0~0.8cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分若干含む。
- 14 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。鉄分少量含む。



53037

- 1 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5cm以下。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。
- 2 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm。その他の石少量φ0.5~3.0cm含む。鉄分若干含む。
- 3 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分若干含む。
- 4 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5cm以下。
- 5 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~1.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分少量含む。

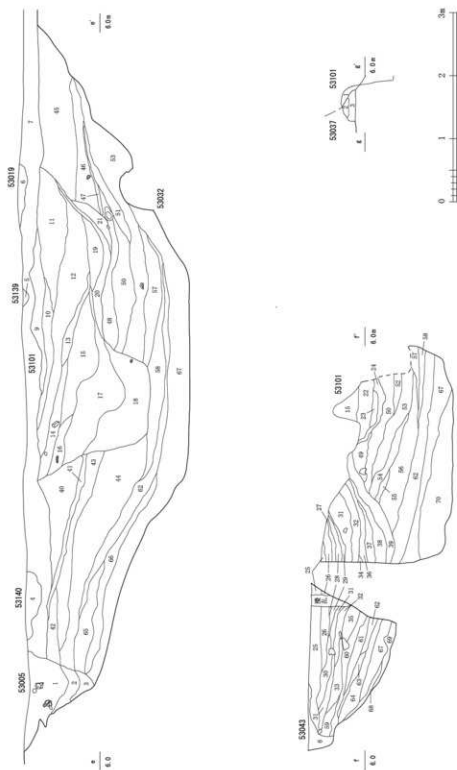
53144

- 1 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分若干含む。
- 2 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ1.0~1.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。鉄分若干含む。
- 3 1018Ⅰ/2Ⅱ-1黄褐色粘土 炭化物。焼土少量含む。筒状石少量φ1.0cm以下。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。
- 4 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm。その他の石少量φ0.5~2.0cm含む。
- 5 1018Ⅰ/4褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ1.0~2.0cm含む。
- 6 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。筒状石少量φ0.5~2.0cm含む。
- 7 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。
- 8 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。
- 9 2.018Ⅰ/4Ⅰ-1黄褐色粘土 炭化物少量含む。

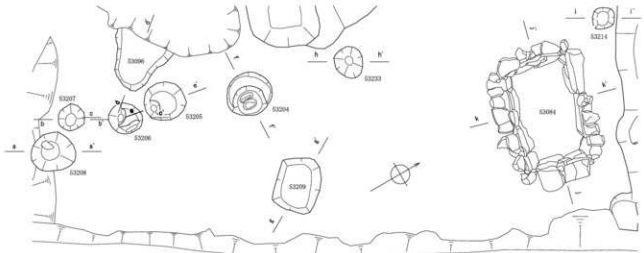


第19図 FKJ05-3 遺構④-2 (S=1/40)

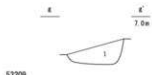




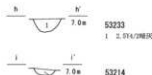
第20図 FKJ05-3 遺構④-3 (S=1/60)



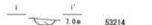
**S3206**  
1 2.014/3オリーブ褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、鉄分と砂まだらに少量混じる。



**S3209**  
1 2.014/3オリーブ褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ3.0cm以下、鉄分少量含む、やや砂=15%。



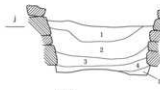
**S3223**  
1 2.014/2緑灰黄褐色粘質土



**S3214**  
1 2.014/2緑灰黄褐色粘質土 その他の石少量φ1.0-4.0cm含む。



**S3207**  
1 2.014/2緑灰黄褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、鉄分と砂少量混じる。



**S3084**  
1 1078A/2に2.014-黄褐色粘質土 炭化物中量含む、その他の石少量φ1.0-3.0cm含む。  
2 1078A/2灰黄褐色粘質土 炭化物中量含む、その他の石少量φ1.0-3.0cm含む。  
3 1078B/2に2.014-黄褐色粘質土 炭化物少量含む、その他の石少量φ1.0-3.0cm含む。  
4 1078A/2に2.014-黄褐色粘質土 その他の石少量φ1.0-3.0cm含む。  
5 1078B/2灰黄褐色粘質土



**S3206**  
1 2.014/2緑灰黄褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ4.0cm以下、鉄分と砂まだらに少量混じる。



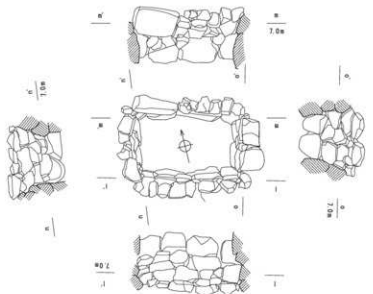
**S3096**  
1 1078B/2緑褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、鉄分の少量含む、黄褐色粘質土少量含む。  
2 1078A/4褐色粘質土 炭化物少量含む、焼土少量含む、焼石少量φ1.0cm以下、鉄分少量含む。



**S3205**  
1 1078A/4褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ1.0cm以下、鉄分中量と砂少量混じる。



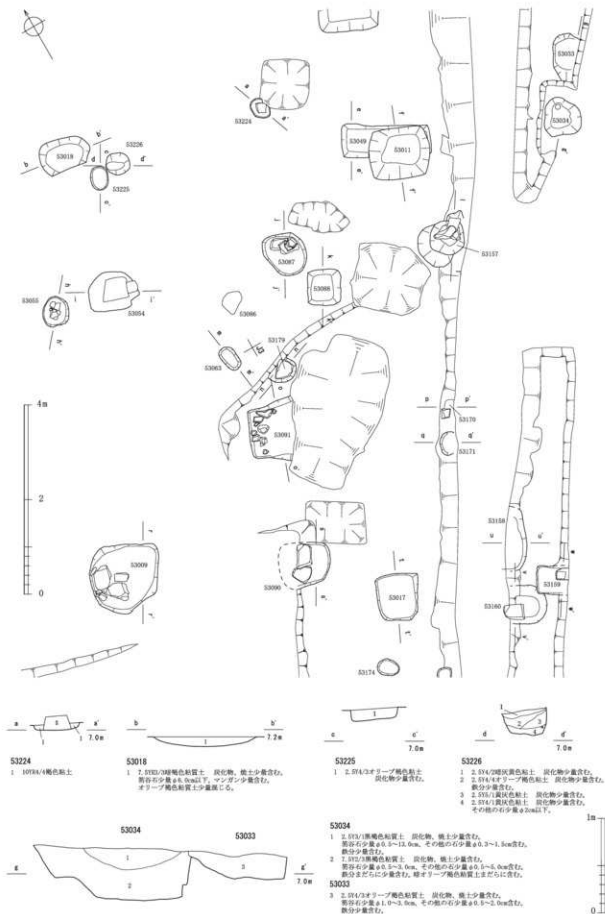
**S3204**  
1 1078A/2に2.014-黄褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、鉄分少量と砂少量混じる。



第21図 FKJ05-3 遺構④-4 (S=1/40)

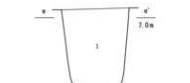






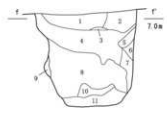
第24図 FKJ05-3 遺構⑦-1 (S=1/80・1/40)

第3章 中・近世の遺構



S3049

- 1 1019A/4褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ3.3~1.0cm含む、黒褐色粘土まじりに混じる、鉄分少量含む。



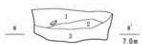
S3011

- 1 2.1019A/4褐色粘質土 炭化物少量含む、その他の石少量φ1.5cm以下、シルト少量含む。
- 2 2.1012/2灰褐色粘土 炭化物、焼土少量含む。
- 3 2.1016/4グリーン褐色粘土 炭化物少量含む、シルト少量含む。
- 4 2.1016/4グリーン褐色粘土 炭化物少量含む、1.2層より粘性強い、シルト多い。
- 5 2.1012/2灰褐色粘土 炭化物少量、焼土少量含む、2層より粘性強い、反層有り。
- 6 2.1012/2灰褐色粘質土 炭化物少量含む、シルト少量含む。
- 7 2.1019/4褐色粘砂 炭化物少量含む、褐色粘土20%含む。
- 8 2.1019/4褐色粘質土 炭化物少量含む、炭褐色粘土30%含む。
- 9 1019A/4褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、若干シルト含む。
- 10 2.1019/4褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、40%含む。
- 11 2.1019/4褐色粘土 炭化物少量含む、磨石石少量φ4.5cm以下、40%含む。



S3009

- 1 1019A/4褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、砂と黒褐色粘土を含む。



S3090

- 1 1019A/4褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ2.0cm以下、鉄分まじりに少量混じる。
- 2 2.1014/2灰褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、鉄分中量。
- 3 2.1014/3グリーン褐色粘土 炭化物、焼土少量含む。



S3017

- 1 1019A/4褐色粘質土 炭化物中量、焼土少量含む、シルト中量含む、粘性強い。
- 2 1019A/2C.15-1黒褐色粘質土 炭化物少量含む、磨石石少量φ0.5cm以下、その他の石少量φ0.5cm以下、シルト少量含む、粘性強い。
- 3 1019A/4褐色粘土 炭化物少量含む、シルト少量含む、粘性強い。



S3065

- 1 1014/3グリーン褐色粘質土 炭化物少量含む、磨石石少量φ6.0~18.0cm含む、鉄分中量まじりに混じる、黒褐色粘土少量含む。
- 2 2.1012/2灰褐色粘質土 炭化物少量含む、鉄分少量混じる。



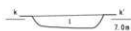
S3064

- 1 2.1014/3グリーン褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ20.0~30.0cm含む、鉄分少量含む。



S3087

- 1 1019A/2C.15-1黒褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量1.5cm以下、その他の石少量φ1.0~4.0cm含む、鉄分少量含む。
- 2 1019A/2C.15-2黒褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ20.0~40.0cm含む、鉄分まじりに少量混じる。



S3088

- 1 1019B1/2灰褐色粘土 炭化物、焼土少量含む。



S3170

- 1 1019A/4褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ18.0cm以下、鉄分少量含む。



S3158

- 1 1019A/4褐色粘土 炭化物、焼土少量含む。



S3157

- 1 2.1014/3グリーン褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ20.0~40.0cm含む、鉄分少量含む。
- 2 2.1014/3グリーン褐色粘土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ1.0cm以下、鉄分少量含む。



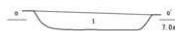
S3063

- 1 2.1014/3グリーン褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ10.0cm以下、鉄分少量含む、シルト含む。



S3179

- 1 1019B2/3黒色粘土 炭化物、焼土少量含む、磨石石少量φ0.5cm以下、鉄分少量混じる。



S3091

- 1 1019B2/3黒色粘土 磨石石少量φ10cm以下、その他の石少量φ1.0~6.0cm含む。



S3171

- 1 1019B2/3黒色粘土 炭化物、焼土少量含む、その他の石少量φ4.0cm以下、鉄分若干含む。



S3159

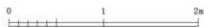
- 1 1019B2/3黒褐色粘質土 炭化物少量含む。
- 2 1019A/2C.15-1黒褐色粘質土



S3160

- 1 1019A/2C.15-1黒褐色粘土 炭化物少量含む、磨石石少量φ10.0cm以下。
- 2 1019A/4褐色粘土 炭化物少量含む、磨石石中量φ30.0cm以下。

第25図 FKJ05-3 遺構⑦-2 (S=1/40)

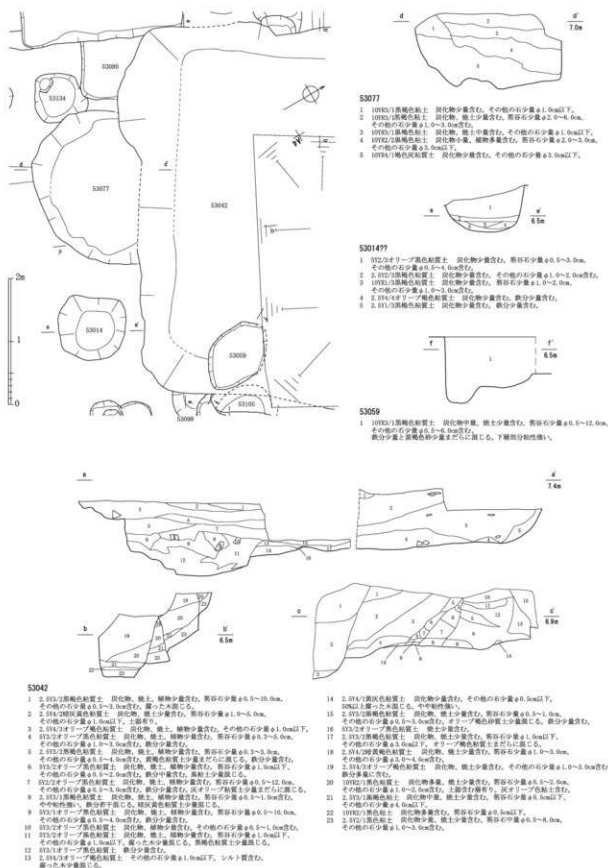




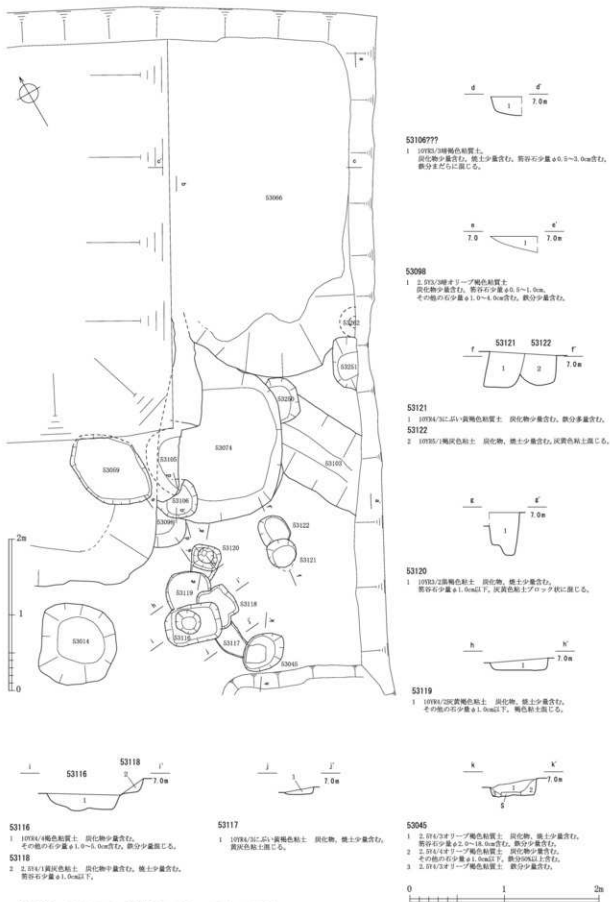




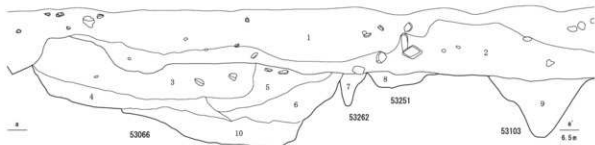




第29図 FKJ05-3 遺構⑩ (S=1/60・1/50)

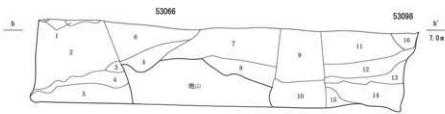


第30図 FKJ05-3 遺構①-1 (S=1/50・1/40)



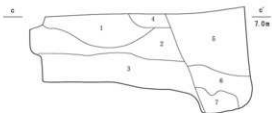
S3066・103・251・262

- 1 103R3/時輪色砂質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~20.0cm、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、鉄分少量含む。
- 2 103R2/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~20.0cm、その他の石少量φ0.5~6.0cm含む、103R3オリーブ褐色粘質土と重なっている。
- 3 103R1/黒オリーブ褐色粘質土 炭化物少量、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~10.0cm、その他の石少量φ0.5~6.0cm含む、下層の部分砂質になる。
- 4 103R4/暗褐色粘質土 炭化物少量、焼土少量含む、その他の石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 5 103R2/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~10.0cm、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、鉄分少量含む。
- 6 103R1/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~15.0cm、その他の石少量φ0.5~17.0cm、鉄分少量含む。
- 7 103R2/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~17.0cm、その他の石少量φ1.0~4.0cm含む、鉄分少量含むと土層あり。
- 8 103R1/黒褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分あり。
- 9 103R1/黒褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分あり。
- 10 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、上層部分砂質あり。
- 11 103R3/オリーブ褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 12 103R2/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 13 103R1/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 14 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、上層部分砂質になる。
- 15 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 16 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 17 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 18 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 19 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 20 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。



S3066・98

- 1 103R3/時輪色砂質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~20.0cm、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、鉄分少量含む。
- 2 103R2/黒褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~20.0cm、その他の石少量φ0.5~6.0cm含む、103R3オリーブ褐色粘質土と重なっている。
- 3 103R1/黒オリーブ褐色粘質土 炭化物少量、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~10.0cm、その他の石少量φ0.5~6.0cm含む、下層の部分砂質になる。
- 4 103R4/暗褐色粘質土 炭化物少量、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 5 103R2/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~10.0cm、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、上層部分砂質あり。
- 6 103R3/オリーブ褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 7 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、上層部分砂質になる。
- 8 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 9 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 10 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 11 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 12 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 13 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 14 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 15 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。
- 16 103R4/暗褐色粘質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ0.5~12.0cm含む、鉄分少量含む。



S3102

- 1 103R3/時輪色砂質土 炭化物、焼土少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm、その他の石少量φ0.5~15.0cm含む、鉄分少量含む。
- 2 103R2/黒褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 3 103R1/黒オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 4 103R4/暗褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 5 103R3/オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 6 103R2/黒褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。
- 7 103R1/黒オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む、筒形石少量φ1.0~3.0cm含む、鉄分少量含む。

第310図 FKJ05-3 遺構①-2 (S=1/40)





FKJ05-8 (連続立体交差事業分)

FKJ05-6-1(福井市分) 3層目

0 10m

第322図 FKJ05-4 遺構配置図 (S=1/200)

## 第2節 FKJ05-4地区の調査

**FKJ05-4地区の概要** この調査区は長さ約92m・幅約16mである(第32図)。調査区南側の隣接地で工事立会(FKJ06-8)を実施した。主要な遺構は、屋敷境となる区画溝・欄列と砂利敷道路、井戸、ゴミ廃棄土坑、土坑、柱穴などで構成される。調査区中央やや北よりの溝54049・54070やその北側の柱穴列(欄列)で屋敷地が区画される。『福居城下絵図』などによると、さらに東西に2分割されるようだが、遺構としてははっきり現れない。また、時期によりさらに北側で区画されるようだが、これもはっきりしない。よって遺構からは、屋敷地としては南側の屋敷(屋敷地①)と北側の屋敷地(屋敷地②)に分れる。北側約25mは、地山に厚さ1mほどの盛土を行い、屋敷地の造成をしている。元々は、北側の百間堀へ向かって自然地形は低かったと考えられる。以下、南より屋敷地ごとに説明する。

### 1 屋敷地①(第33～36図)

『福井城下絵図』などから17世紀初頭は「土屋氏」、17世紀半ばは「石川氏」の屋敷地にあたり、1669年の寛文の大火後は火除け地として「御菜園」となったと考えられる。

調査区南端は道路となり、一部分のみ砂利があった。幅は、工事立会区(FKJ06-8)で検出された石積側溝までで約7mである。側溝は計6本あり、北側に3本54015・54071・54014、中央部に54075・54013、南側の溝は、工事立会区の石積側溝となる。この側溝の石材は、北西側は比較的小振りの幅40cm前後を使用しているが、南側は幅60cm前後である。溝54013のみが18世紀後半～19世紀のもので、他の溝は16世紀末～17世紀初頭のものである。北側の溝は深さ約0.8mである。

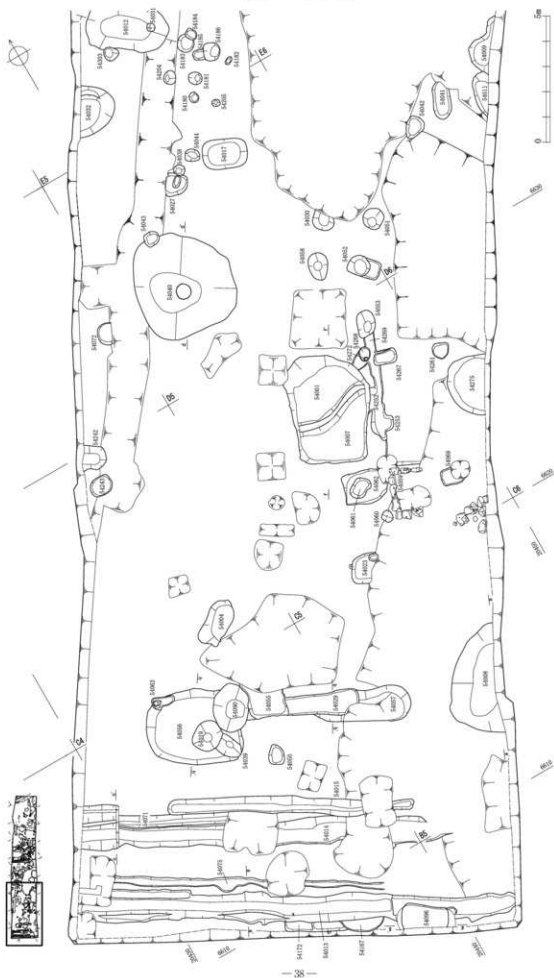
土坑では、焼土などと共に瓦などが大量に出土する瓦だまり2基がある。両方も17世紀後半の時期で、寛文の大火時に存在した、門や塀に葺かれていた瓦などの火事場整理のものである。土坑54001は屋敷地中央やや南側にあり、長方形を呈す。土坑54002は屋敷地北方にあり、遺構の東側一部が検出され不整形である。深さは共に約0.9mである。また、ゴミ廃棄土坑として、16世紀末～17世紀初頭に54025・54008、17世紀後半に54021・54022・54064～54067、19世紀に54008があり、屋敷地南北の境近くに存在する。井戸は、井戸54040の1基のみで、時期は16世紀末～17世紀初頭である。桶製で、井筒を4段重ねており、深さは約3.3mである。

### 2 屋敷地②(第37～41図)

『福井城下絵図』などから17世紀初頭は「牧野三太郎氏」、17世紀半ばは「石川氏」・「土屋氏」・「島田氏」の屋敷地にあたり、1669年の寛文の大火後は火除け地として「御菜園」となったと考えられる。

南側の区画溝54049は、幅0.5m、深さ0.6m程である。その北側に並行して柱穴列(欄)がある。約2.7m間隔で深さ約0.6mの柱穴があり、その中間には深さ約0.3mの柱穴がある。井戸は4基あり、17世紀後半の54005は井筒が抜き取られて存在しないが、他の54006・54010・54286には桶がある。今回の調査では建物を復元することは出来なかったが、区画溝54049と井戸3基が集中する間に柱穴群があり、おそらくここに何らかの建物が存在したものと考えられる。

井戸54086から北側15mほどは、深さ0.8m程が盛土層となる(第2章第2節参照)。この盛土層の下、調査区の北端に、幅約2.5m、長さ12m以上、深さ約1.4mのほぼ東西方向に延びる溝54280がある。この溝からは、16世紀代の遺物のみが出土しており、福井城築城以前に遡る遺構となる。

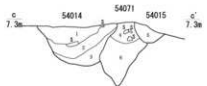


第33図 FKJ05-4 遺構①-1 (S=1/150)

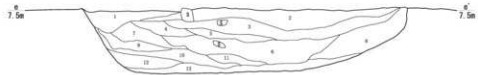
第2節 FKJ05-4地区の調査



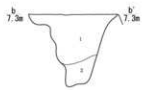
- 54013**
- 1 10YR5/1に多い黄褐色粘質土 腐石が多量で0.5m~20cm, その他の石多量で0.5m含む。(石密集層)
  - 2 10YR5/1に多い灰色粘土 その他の石少量で0.5m含む。
  - 3 10YR2/1に多い赤色粘土 炭化物少量含む。腐石、その他の石少量で0.5m含む。
  - 4 2.10Y2/2黄褐色粘土 その他の石少量で0.5m含む。
  - 5 2.10Y2/2黄褐色粘土 その他の石少量で0.5m含む。
  - 6 2.10Y2/2黄褐色粘土 腐石、その他の石少量で0.5m含む。
  - 7 2.10Y2/2黄褐色粘土 腐石、その他の石少量で0.5m含む。
  - 8 2.10Y2/2黄褐色粘土 腐石、その他の石少量で0.5m含む。
  - 9 2.10Y2/2に多い黄褐色粘土 炭化物少量含む。腐石、その他の石少量で0.5m含む。



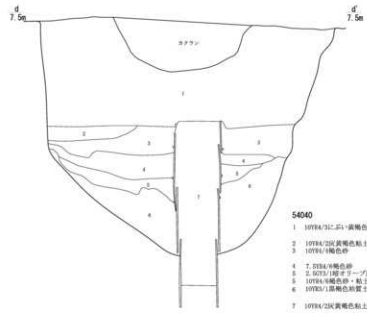
- 54014・071・015**
- 1 10YR5/4暗褐色粘質土 腐石少量で0.5cm, その他の石中量で0.5m含む。
  - 2 10YR4/4褐色粘質土 腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 3 10YR4/4褐色粘質土 腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 4 10YR4/4褐色粘質土 腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 5 10YR4/4褐色粘質土 腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 6 10YR4/3に多い黄褐色粘土 その他の石少量で0.5cm含む。



- 54006**
- 1 10YR5/1に多い黄褐色粘質土 炭化物、粘土少量含む。植物無し。腐石、その他の石無し。(土層)
  - 2 10YR4/1褐色粘土 炭化物、粘土少量含む。植物少量含む。腐石少量で0.5cmその他の石無しで0.5m含む。(土層)
  - 3 10YR2/1褐色粘土 炭化物、粘土少量含む。植物中量含む。腐石少量で0.5cmその他の石少量で0.5m。木片含む。(中層)
  - 4 10YR4/1褐色粘土 炭化物中量。粘土、植物無し。腐石無し。その他の石少量で0.5m含む(中層上)。
  - 5 10YR2/1褐色粘土 炭化物、植物少量含む。粘土無し。腐石、その他の石少量で0.5m含む(中層中)。
  - 6 10YR4/1褐色粘土 炭化物中量。粘土、植物無し。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。(中層下)
  - 7 10YR5/1褐色粘質土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石、その他の石無し。(下層)
  - 8 10YR5/1褐色粘質土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石少量で0.5m含む。その他の石無し。(下層)
  - 9 10YR4/1褐色粘質土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石、その他の石無し。(下層)
  - 10 10YR4/1褐色粘質土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。(下層)
  - 11 10YR2/1褐色粘土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石少量で0.5cm, その他の石無し。(下層)
  - 12 10YR4/1褐色粘土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石、その他の石無し。(下層)
  - 13 10YR4/4褐色粘土 炭化物少量。粘土、植物無し。腐石、その他の石無し。(硬質化層)(下層)



- 54029**
- 1 10YR4/3に多い黄褐色粘質土 炭化物少量含む。腐石少量で0.5cm。
  - 2 10YR4/1褐色粘土 炭化物少量含む。

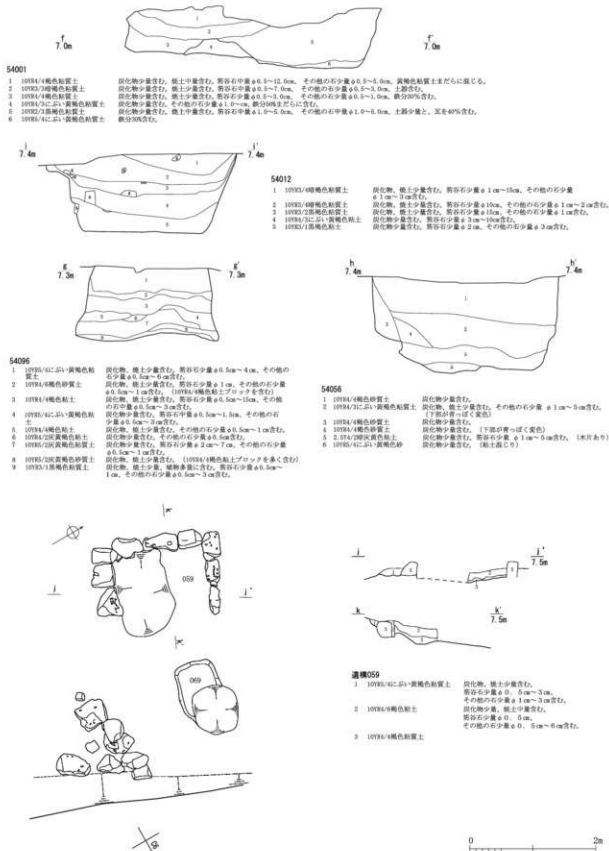


- 54040**
- 1 10YR4/3に多い黄褐色粘質土 炭化物、粘土少量含む。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m~2.5cm含む。
  - 2 10YR4/2黄褐色粘土 炭化物少量含む。その他の石少量で0.5m含む。
  - 3 10YR4/1褐色粘土 炭化物、粘土少量含む。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 4 7.5YR4/6褐色粘土 炭化物少量含む。(注: 50Y2/1層オリーブ灰色粘質土が多く混入)
  - 5 2.50Y2/1層オリーブ灰色粘質土 炭化物、粘土少量含む。
  - 6 10YR4/6褐色粘土 炭化物少量含む。植物無し。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。
  - 7 10YR4/2黄褐色粘土 炭化物、粘土少量含む。腐石少量で0.5cm, その他の石少量で0.5m含む。



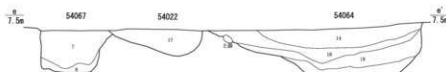
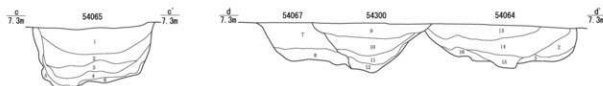
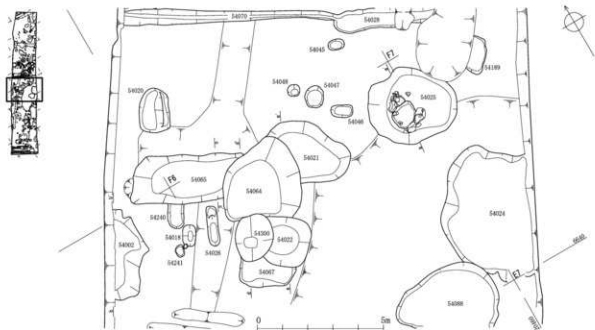
第34図 FKJ05-4 遺構①-2 (S=1/50)





第35図 FKJ05-4 遺構①-3 (S=1/60)

第2節 FKJ05-4地区の調査



54065・67・64・22

- 1 10YR5/2暗褐色粘土
- 2 10YR3/2暗褐色粘質土
- 3 10YR2/1暗褐色粘土
- 4 2.5YR2/1黒色粘土
- 5 10YR4/2赤黄褐色粘土
- 6 2.5YR4/2暗黄褐色粘土
- 7 10YR2/4暗褐色粘質土
- 8 10YR4/2赤黄褐色粘質土
- 9 10YR4/4褐色粘質土
- 10 10YR4/3赤黄褐色粘質土
- 11 10YR3/2暗褐色粘質土
- 12 10YR4/2暗褐色粘質土
- 13 10YR3/2暗褐色粘質土
- 14 10YR3/2暗褐色粘質土
- 15 10YR4/2赤黄褐色粘質土
- 16 10YR4/2赤黄褐色粘質土
- 17 10YR3/2暗褐色粘質土
- 18 10YR3/2暗褐色粘質土
- 19 10YR4/4褐色粘土
- 20 10YR6/4赤黄褐色粘質土

炭化物、焼土少量含む。剪断石少量あり。その他の石少量あり。1-1.5cm含む。  
炭化物、焼土少量含む。剪断石少量あり。その他の石少量あり。2-3cm含む。  
炭化物少量含む。剪断石少量あり。その他の石少量あり。3cm含む。  
植物多量含む。その他の石少量あり。5cm含む。  
炭化物少量含む。  
炭化物。焼土少量含む。剪断石少量あり。2-3cm。その他の石少量あり。1-3cm含む。  
炭化物少量含む。  
炭化物中量。焼土少量含む。剪断石少量あり。2-8cm。その他の石少量あり。2-7cm含む。  
炭化物中量。焼土少量含む。剪断石少量あり。2-7cm。その他の石少量あり。1-7cm含む。  
炭化物少量含む。剪断石少量あり。その他の石少量あり。2-3cm含む。  
炭化物少量含む。  
炭化物。焼土少量含む。剪断石少量あり。2-2cm。その他の石少量あり。2-5cm含む。  
炭化物中量。焼土少量含む。剪断石中量あり。0.5-2cm。その他の石中量あり。0.5-6cm含む。  
炭化物少量含む。その他の石少量あり。2cm含む。  
炭化物少量含む。その他の石少量あり。1cm含む。  
炭化物中量。焼土少量含む。剪断石少量あり。0.5-3cm。その他の石中量あり。0.5-4cm含む。  
炭化物中量。焼土少量含む。剪断石少量あり。2-5cm。その他の石少量あり。0.5-3cm含む。  
炭化物。焼土少量含む。剪断石少量あり。1cm。その他の石少量あり。0.5-3cm含む。  
炭化物少量含む。剪断石少量あり。1cm。その他の石少量あり。1.5cm含む。



54025

- 1 10YR4/4褐色粘質土
- 2 10YR3/2暗褐色粘質土
- 3 10YR4/2赤黄褐色粘土
- 4 2.5Y2/2暗褐色粘土
- 5 10YR2/1暗褐色粘土
- 6 10YR2/1暗褐色粘土
- 7 10YR2/1暗褐色粘土
- 8 2.5Y4/2暗黄褐色砂
- 9 2.5Y2/2暗褐色砂

炭化物少量。焼土中量含む。剪断石少量あり。1cm-2.5cm。その他の石少量あり。0.5cm-3cm含む。  
炭化物少量含む。その他の石少量あり。0.5-6cm含む。剪断石少量あり。1cm-4cm。その他の石少量あり。1cm-6cm含む。  
炭化物少量含む。剪断石少量あり。1cm-5cm。その他の石少量あり。0.5cm-3cm含む。剪断石少量あり。10cm。その他の石少量あり。1.5cm-3cm含む。  
炭化物少量含む。  
炭化物少量あり。剪断石少量あり。1cm-5cm。その他の石少量あり。1.5cm含む。その他の石少量あり。1.5cm含む。  
炭化物少量含む。炭分を多く含む。炭化物少量含む。  
その他の石少量あり。4cm含む。



54002

- 1 5YR5/4 暗褐色粘土
- 2 10YR4/2 暗褐色粘質土

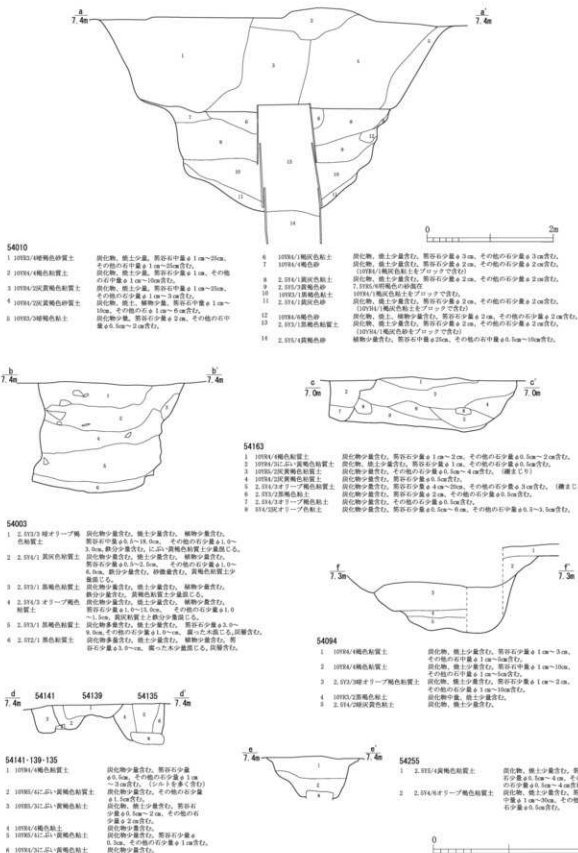
炭化物、焼土少量含む。剪断石少量あり。2-3cm。その他の石少量あり。0.5-3cm。少々中量。炭分。炭分は中に少量含む。  
炭化物少量含む。焼土多量含む。剪断石少量あり。2-7cm。その他の石少量あり。1-4cm。炭土層有り。3層有り。

第36図 FKJ05-4 遺構② (S=1/50・1/60)



第37図 FKJ05-4 遺構③-1 (S=1/150)

第2節 FKJ05-4地区の調査



第38図 FKJ05-4 遺構③-2 (S=1/60・1/50)



